

第11章 環境影響の総合的な評価

本事業の実施が環境に及ぼす影響の評価は、以下の2つの観点から行った。

- ① 調査および予測の結果ならびに環境保全措置の検討を行った場合においてはその結果を踏まえ、対象事業の実施により当該選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある環境影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているか。
- ② 国、県または関係市町が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準または目標が示されている場合には、当該基準または目標と調査および予測の結果との間に整合が図られているか。

本事業の実施が環境に及ぼす影響として、大気質、騒音、超低周波音、振動、悪臭、水質、動物、植物、生態系、景観、廃棄物等、温室効果ガス、文化財および伝承文化について、既存の知見および現地調査結果を踏まえて予測を行うとともに、環境保全措置の検討を行った。

その結果、本事業について工事中および供用後において適切な環境保全措置を実施することで、いずれの項目も環境の保全に係る基準または目標との整合性は図られるとともに、環境への影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減されることから、環境保全への配慮は適正であると判断した。

なお、本施設の整備にあたっては、環境に配慮した最新技術を導入するとともに、調査、予測・評価の結果を踏まえ、「第9章 環境保全措置」に示す措置を適切に講じ、周辺環境への影響を防止していく。また、工事中および供用後において、予測し得なかった著しい環境への影響が生じた場合には、必要に応じて影響の把握のための調査を実施し、適切な措置を講じる。合わせて、適切な情報公開を図り、風評被害等が生じることのないよう努めていく。

以下に、調査、予測および評価の結果の概要を示す。

表 11-1 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																										
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																												
大気質	大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	重機の稼働	・大気質 ＜一般環境（四季調査）＞ 調査期間中の季節別の各地点における平均値は、二酸化窒素が0.001～0.006ppm、二酸化硫黄が0.001～0.004ppm、浮遊粒子状物質が0.005～0.031mg/m³であり、全ての項目・期間・地点において環境基準値以下であった。 降下ばいじんは 0.65～1.84t/km²/月であり、全ての期間において指標値以下であった。 塩化水素は全て定量下限値未満であり全ての期間・地点において目標環境濃度以下であった。 ダイオキシン類の平均値は 0.0037～0.0084pg-TEQ/m³であり、全ての期間・地点において環境基準値以下であった。 水銀は全て定量下限値未満であり、全ての期間・地点において指標値以下であった。 ＜沿道環境（四季調査）＞ 調査期間中の季節別の各地点における平均値は、二酸化窒素が0.003～0.010ppm、浮遊粒子状物質が 0.004～0.033mg/m³ であり、各地点ともに環境基準値以下であった。 ・気象 ＜地上気象＞ 対象事業実施区域内における最多風向は東北東の風、風速の期間平均は 2.1m/s、日平均値の最高値は 5.5m/s、静穏率は 4.2%、日射量の期間平均値は 0.15 kW/m²、放射収支量の期間平均は 0.082 kW/m²、気温の期間平均は 14.0℃、湿度の期間平均は 75%であった。 風向は、冬季は北東の風、春季は北西の風、夏季および秋季は東北東の風が卓越していた。 ＜上層気象＞ 風向の鉛直分布は、冬季・夏季・秋季は、昼夜ともに高度 50m～1000m にかけて風向の変動が小さく、冬季および秋季は北西～北北西よりの風、夏季は東南～南よりの風が多くみられた。春季の昼間は、高度 50m～250m および高度 700m～850m にかけて北西～北北西の風、高度 300m～650m および高度 900m～1000m にかけて南東～東南東の風が多くみられ、夜間は高度 50m～250m、高度 350m～700m および 850m～1000m にかけて北東～北西の風の範囲で風向が変動し、高度 250m、600m および 750m～800m で南東の風が多くみられた。	1.予測結果 工事の実施による重機（建設機械）の稼働に伴う二酸化窒素の寄与濃度の年平均値は、最大着地濃度地点（西側敷地境界）で 0.008392ppm となり、バックグラウンド濃度と寄与濃度を足し合わせた二酸化窒素の予測結果は、最大着地濃度地点で 0.013ppm となった。 浮遊粒子状物質の寄与濃度の年平均値は、最大着地濃度地点（西側敷地境界）で 0.000865mg/m³となり、バックグラウンド濃度と寄与濃度を足し合わせた浮遊粒子状物質の予測結果は、最大着地濃度地点で 0.015mg/m³となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・排出ガス対策型建設機械の採用：建設工事に使用する重機（建設機械）は、排出ガス対策型を採用するよう努める。 ・重機の整備・点検：重機の整備・点検を徹底する。 ・教育指導の実施：アイドリングストップの徹底や空ぶかしの禁止、重機に過剰な負荷をかけないように留意するなど、工事関係者に対して必要な教育・指導を行う。 ・仮囲いの設置：建設工事の期間中においては、必要な範囲に仮囲いを設置する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 二酸化窒素の年平均値は、最大着地濃度地点（西側敷地境界）で 0.013ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は、最大着地濃度地点（西側敷地境界）で 0.015mg/m³となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は、最大着地濃度地点（西側敷地境界）で 0.029ppm であり、環境保全目標値とした「0.04～0.06ppm のゾーン内またはそれ以下」を満足する値となる。また、浮遊粒子状物質の日平均値の年間 2%除外値は、最大着地濃度地点（西側敷地境界）で 0.037mg/m³であり、環境保全目標値とした「0.10mg/m³以下」を満足する値となる。以上の結果より、重機の稼働に伴う二酸化窒素および浮遊粒子状物質の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。 <table><caption>＜最大着地濃度地点（西側敷地境界）における予測・評価結果＞</caption><tr><th>項目</th><th>寄与濃度(A)</th><th>バックグラウンド濃度(B)</th><th>予測結果(A+B)</th><th>日平均値の年間 98%値または日平均値の年間 2%除外値</th><th>環境保全目標値※</th></tr><tr><td>二酸化窒素質 (ppm)</td><td>0.008392</td><td>0.005</td><td>0.013</td><td>0.029</td><td>0.04～0.06 のゾーン内またはそれ以下</td></tr><tr><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>0.000865</td><td>0.014</td><td>0.015</td><td>0.037</td><td>0.10 以下</td></tr></table> 注）※：「二酸化窒素に係る環境基準について」および「大気汚染に係る環境基準について」の環境基準の値を適用した。	項目	寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果(A+B)	日平均値の年間 98%値または日平均値の年間 2%除外値	環境保全目標値※	二酸化窒素質 (ppm)	0.008392	0.005	0.013	0.029	0.04～0.06 のゾーン内またはそれ以下	浮遊粒子状物質 (mg/m³)	0.000865	0.014	0.015	0.037	0.10 以下																																								
		項目	寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果(A+B)	日平均値の年間 98%値または日平均値の年間 2%除外値	環境保全目標値※																																																							
二酸化窒素質 (ppm)	0.008392	0.005	0.013	0.029	0.04～0.06 のゾーン内またはそれ以下																																																									
浮遊粒子状物質 (mg/m³)	0.000865	0.014	0.015	0.037	0.10 以下																																																									
	大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	工事用車両の走行		1.予測結果 工事用車両の走行に係る寄与濃度の年平均値は二酸化窒素が 0.000090～0.000096ppm、浮遊粒子状物質が 0.000004～0.000005mg/m³ となった。また、バックグラウンド濃度と寄与濃度を足し合わせた予測結果は、二酸化窒素が 0.005～0.007ppm、浮遊粒子状物質が 0.014mg/m³ となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、対象事業実施区域内で再利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 ・車両の維持管理：工事用車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つ。 ・運転手の教育・指導：工事用車両の走行にあたっては、積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 二酸化窒素の年平均値は、0.005～0.007ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は、0.014mg/m³となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は、0.019～0.021ppm であり、どの地点も環境保全目標値とした「0.04～0.06ppm のゾーン内またはそれ以下」を満足する値となる。また、浮遊粒子状物質の日平均値の年間 2%除外値は、0.037mg/m³であり、どの地点も環境保全目標値とした「0.10mg/m³以下」を満足する値となる。以上の結果より、工事用車両の走行に伴う二酸化窒素および浮遊粒子状物質の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。 <table><caption>＜工事用車両の走行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測・評価結果＞</caption><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">予測地点</th><th colspan="3">寄与濃度</th><th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th><th rowspan="2">予測結果(年平均値)</th><th rowspan="2">日平均値の年間 98%値または日平均値の年間 2%除外値</th><th rowspan="2">環境保全目標値※</th></tr><tr><th>現況交通量</th><th>工事用車両</th><th>合計</th></tr><tr><td rowspan="3">二酸化窒素 (ppm)</td><td>県道 276 号（木尾南集落）</td><td>0.000141</td><td>0.000095</td><td>0.000236</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.019</td><td rowspan="3">0.04～0.06 のゾーン内またはそれ以下</td></tr><tr><td>国道 365 号（浅井福祉センター）</td><td>0.002375</td><td>0.000090</td><td>0.002465</td><td>0.005</td><td>0.007</td><td>0.021</td></tr><tr><td>県道 276 号（浅井体育館）</td><td>0.000347</td><td>0.000096</td><td>0.000443</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.020</td></tr><tr><td rowspan="3">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>県道 276 号（木尾南集落）</td><td>0.000007</td><td>0.000005</td><td>0.000012</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.037</td><td rowspan="3">0.10 以下</td></tr><tr><td>国道 365 号（浅井福祉センター）</td><td>0.000110</td><td>0.000004</td><td>0.000114</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.037</td></tr><tr><td>県道 276 号（浅井体育館）</td><td>0.000016</td><td>0.000005</td><td>0.000021</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.037</td></tr></table> 注）※：「二酸化窒素に係る環境基準について」および「大気汚染に係る環境基準について」の環境基準の値を適用した。	項目	予測地点	寄与濃度			バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間 98%値または日平均値の年間 2%除外値	環境保全目標値※	現況交通量	工事用車両	合計	二酸化窒素 (ppm)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000141	0.000095	0.000236	0.005	0.005	0.019	0.04～0.06 のゾーン内またはそれ以下	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.002375	0.000090	0.002465	0.005	0.007	0.021	県道 276 号（浅井体育館）	0.000347	0.000096	0.000443	0.005	0.005	0.020	浮遊粒子状物質 (mg/m³)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000007	0.000005	0.000012	0.014	0.014	0.037	0.10 以下	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.000110	0.000004	0.000114	0.014	0.014	0.037	県道 276 号（浅井体育館）	0.000016	0.000005	0.000021	0.014	0.014	0.037
項目	予測地点	寄与濃度					バックグラウンド濃度	予測結果(年平均値)	日平均値の年間 98%値または日平均値の年間 2%除外値					環境保全目標値※																																																
		現況交通量	工事用車両	合計																																																										
二酸化窒素 (ppm)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000141	0.000095	0.000236	0.005	0.005	0.019	0.04～0.06 のゾーン内またはそれ以下																																																						
	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.002375	0.000090	0.002465	0.005	0.007	0.021																																																							
	県道 276 号（浅井体育館）	0.000347	0.000096	0.000443	0.005	0.005	0.020																																																							
浮遊粒子状物質 (mg/m³)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000007	0.000005	0.000012	0.014	0.014	0.037	0.10 以下																																																						
	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.000110	0.000004	0.000114	0.014	0.014	0.037																																																							
	県道 276 号（浅井体育館）	0.000016	0.000005	0.000021	0.014	0.014	0.037																																																							

表 11-2 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																																																																																																																																																																																																								
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																										
大気質	大気質（粉じん等）	重機の稼働	(前ページ参照)	1.予測結果 工事の実施による重機（建設機械）の稼働に伴う粉じん等の寄与分の値は 0.01～0.42t/km ² /月となり、バックグラウンドと寄与分を足し合わせた粉じん等の予測結果の値は 0.66～2.04t/km ² /月となった。																																																																																																																																																																																																																																								
				2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・ 散水の実施 ：強風時や乾燥時等の砂じんの発生しやすい気象条件においては、必要に応じ、適宜散水する。 ・ 敷鉄板の設置 ：敷地内の車両走行ルートや重機稼働箇所を中心に、可能な限り敷鉄板を設置する。																																																																																																																																																																																																																																								
				3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。																																																																																																																																																																																																																																								
				4.評価結果 ・ 環境影響の回避・低減に係る評価 粉じん等の各地点の予測結果は 0.66～2.04t/km ² /月となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。																																																																																																																																																																																																																																								
				・ 環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 粉じん等の各地点の予測結果は 0.66～2.04t/km ² /月であり、環境保全目標値とした「20t/km ² /月以下」を満足する値となる。 以上の結果より、重機の稼働に伴う粉じん等の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。																																																																																																																																																																																																																																								
大気質	大気質（二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、その他の物質）	施設の稼働		1.予測結果 施設の稼働に伴う大気質の予測は、関連施設による複合的影響を考慮し、焼却施設（単独影響）および焼却施設＋バイオガス化施設（複合影響）の 2 ケースを対象とした。 ・ 長期平均濃度（焼却施設） 施設の稼働に伴う大気質の年平均値の最大着地濃度地点は対象事業実施区域南東側の本施設から約 400mの位置に出現し、寄与濃度は二酸化硫黄が 0.00039ppm、二酸化窒素が 0.00016ppm、浮遊粒子状物質が ^g 0.00013mg/m ³ 、塩化水素が ^g 0.00039ppm、ダイオキシン類が ^g 0.00132pg-TEQ/m ³ 、水銀が 0.00039μg/m ³ 以下と予測され、いずれの項目についても、バックグラウンド濃度に対して極めて低い濃度となった。また、バックグラウンド濃度と寄与濃度を足し合わせた予測結果は、二酸化硫黄が ^g 0.002ppm、二酸化窒素が ^g 0.005ppm、浮遊粒子状物質が 0.014mg/m ³ 、塩化水素が 0.001ppm、ダイオキシン類が ^g 0.0079pg-TEQ/m ³ 、水銀が 0.004μg/m ³ となった。 ・ 長期平均濃度（焼却施設＋バイオガス化施設） 施設の稼働に伴う大気質の年平均値の最大着地濃度地点は、二酸化硫黄、二酸化窒素および浮遊粒子状物質については、対象事業実施区域内に出現し、寄与濃度は二酸化硫黄が 0.00058ppm、二酸化窒素が 0.00054ppm、浮遊粒子状物質が 0.00026mg/m ³ 以下と予測され、いずれの項目についても、バックグラウンド濃度に対して極めて低い濃度となった。塩化水素、ダイオキシン類および水銀の年平均値の最大着地濃度地点は、焼却施設単独の影響と同様に対象事業実施区域南東側の本施設から約 400mの位置に出現し、寄与濃度は塩化水素が 0.00039ppm、ダイオキシン類が ^g 0.00132pg-TEQ/m ³ 、水銀が 0.00039μg/m ³ 以下と予測され、いずれの項目についても、バックグラウンド濃度に対して極めて低い濃度となった。また、バックグラウンド濃度と寄与濃度を足し合わせた予測結果は、二酸化硫黄が 0.003ppm、二酸化窒素が 0.006ppm、浮遊粒子状物質が ^g 0.014mg/m ³ 、塩化水素が 0.001ppm、ダイオキシン類が ^g 0.0079pg-TEQ/m ³ 、水銀が ^g 0.004μg/m ³ となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・ 排ガス処理設備 ：最新の排ガス処理設備を採用するとともに、適切な燃焼管理や薬剤噴霧等により、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制を行う。 ・ 運転管理の徹底 ：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。 ・ 排ガス濃度等の情報公開 ：排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。 3.事後調査 想定される予測条件に幅があるため、複数の予測条件を設定した幅のある予測結果となっているが、採用した予測の手法は、その予測精度に係る知見・事例等が十分に蓄積されているものであるため、この幅を大きく逸脱する可能性は小さいと考えられること、採用する環境保全措置の効果は知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 なお、滋賀県環境影響評価技術指針における事後調査の要件に該当しないが、大気汚染防止法等の関係法令に基づき、環境監視調査として、排ガス濃度の測定を継続的に実施する。 4.評価結果 ・ 環境影響の回避・低減に係る評価 <長期平均濃度（焼却施設（単独影響）、焼却施設＋バイオガス化施設（複合影響）> 最大着地濃度地点の予測結果は、二酸化硫黄が 0.002～0.003ppm、二酸化窒素が 0.005～0.006ppm、浮遊粒子状物質が ^g 0.014mg/m ³ 、塩化水素が 0.001ppm、ダイオキシン類が ^g 0.0079pg-TEQ/m ³ 、水銀が 0.004μg/m ³ となり、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。																																																																																																																																																																																																																																								
<重機の稼働に伴う粉じん等の予測・評価結果> [単位：t/km ² /月]																																																																																																																																																																																																																																												
<table><tr><th>予測地点</th><th>時期</th><th>寄与分(A)</th><th>バックグラウンド(B)^{※1}</th><th>予測結果(A) + (B)</th><th>環境保全目標値^{※2}</th></tr><tr><td rowspan="4">対象事業実施区域近傍</td><td>冬季</td><td>0.08</td><td>1.31</td><td>1.39</td><td rowspan="20">20 以下</td></tr><tr><td>春季</td><td>0.38</td><td>1.66</td><td>2.04</td></tr><tr><td>夏季</td><td>0.42</td><td>1.14</td><td>1.56</td></tr><tr><td>秋季</td><td>0.35</td><td>0.87</td><td>1.22</td></tr><tr><td rowspan="4">大依公会堂</td><td>冬季</td><td>0.01</td><td>1.61</td><td>1.62</td></tr><tr><td>春季</td><td>0.02</td><td>1.52</td><td>1.54</td></tr><tr><td>夏季</td><td>0.01</td><td>0.71</td><td>0.72</td></tr><tr><td>秋季</td><td>0.01</td><td>0.66</td><td>0.67</td></tr><tr><td rowspan="4">八島公会堂</td><td>冬季</td><td>0.02</td><td>1.53</td><td>1.55</td></tr><tr><td>春季</td><td>0.01</td><td>1.65</td><td>1.66</td></tr><tr><td>夏季</td><td>0.01</td><td>0.86</td><td>0.87</td></tr><tr><td>秋季</td><td>0.01</td><td>1.13</td><td>1.14</td></tr><tr><td rowspan="4">田根小学校</td><td>冬季</td><td>0.01</td><td>1.02</td><td>1.03</td></tr><tr><td>春季</td><td>0.01</td><td>1.35</td><td>1.36</td></tr><tr><td>夏季</td><td>0.01</td><td>0.65</td><td>0.66</td></tr><tr><td>秋季</td><td>0.01</td><td>0.74</td><td>0.75</td></tr><tr><td rowspan="4">木尾町運動場</td><td>冬季</td><td>0.01</td><td>1.28</td><td>1.29</td></tr><tr><td>春季</td><td>0.02</td><td>1.55</td><td>1.57</td></tr><tr><td>夏季</td><td>0.02</td><td>1.84</td><td>1.86</td></tr><tr><td>秋季</td><td>0.02</td><td>0.73</td><td>0.75</td></tr></table> 注) ※1：バックグラウンドは、予測地点における季節別の現況調査結果とした。 ※2：「スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標」における指標値を参考とした値を適用した。					予測地点	時期	寄与分(A)	バックグラウンド(B) ^{※1}	予測結果(A) + (B)	環境保全目標値 ^{※2}	対象事業実施区域近傍	冬季	0.08	1.31	1.39	20 以下	春季	0.38	1.66	2.04	夏季	0.42	1.14	1.56	秋季	0.35	0.87	1.22	大依公会堂	冬季	0.01	1.61	1.62	春季	0.02	1.52	1.54	夏季	0.01	0.71	0.72	秋季	0.01	0.66	0.67	八島公会堂	冬季	0.02	1.53	1.55	春季	0.01	1.65	1.66	夏季	0.01	0.86	0.87	秋季	0.01	1.13	1.14	田根小学校	冬季	0.01	1.02	1.03	春季	0.01	1.35	1.36	夏季	0.01	0.65	0.66	秋季	0.01	0.74	0.75	木尾町運動場	冬季	0.01	1.28	1.29	春季	0.02	1.55	1.57	夏季	0.02	1.84	1.86	秋季	0.02	0.73	0.75																																																																																																																																												
予測地点	時期	寄与分(A)	バックグラウンド(B) ^{※1}	予測結果(A) + (B)	環境保全目標値 ^{※2}																																																																																																																																																																																																																																							
対象事業実施区域近傍	冬季	0.08	1.31	1.39	20 以下																																																																																																																																																																																																																																							
	春季	0.38	1.66	2.04																																																																																																																																																																																																																																								
	夏季	0.42	1.14	1.56																																																																																																																																																																																																																																								
	秋季	0.35	0.87	1.22																																																																																																																																																																																																																																								
大依公会堂	冬季	0.01	1.61	1.62																																																																																																																																																																																																																																								
	春季	0.02	1.52	1.54																																																																																																																																																																																																																																								
	夏季	0.01	0.71	0.72																																																																																																																																																																																																																																								
	秋季	0.01	0.66	0.67																																																																																																																																																																																																																																								
八島公会堂	冬季	0.02	1.53	1.55																																																																																																																																																																																																																																								
	春季	0.01	1.65	1.66																																																																																																																																																																																																																																								
	夏季	0.01	0.86	0.87																																																																																																																																																																																																																																								
	秋季	0.01	1.13	1.14																																																																																																																																																																																																																																								
田根小学校	冬季	0.01	1.02	1.03																																																																																																																																																																																																																																								
	春季	0.01	1.35	1.36																																																																																																																																																																																																																																								
	夏季	0.01	0.65	0.66																																																																																																																																																																																																																																								
	秋季	0.01	0.74	0.75																																																																																																																																																																																																																																								
木尾町運動場	冬季	0.01	1.28	1.29																																																																																																																																																																																																																																								
	春季	0.02	1.55	1.57																																																																																																																																																																																																																																								
	夏季	0.02	1.84	1.86																																																																																																																																																																																																																																								
	秋季	0.02	0.73	0.75																																																																																																																																																																																																																																								
<施設の稼働に伴う大気質の予測・評価結果（長期平均濃度：焼却施設）>																																																																																																																																																																																																																																												
<table><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">予測地点</th><th colspan="3">年平均値</th><th rowspan="2">日平均値^{※1}</th><th rowspan="2">環境保全目標値^{※2}</th></tr><tr><th>寄与濃度(A)</th><th>バックグラウンド濃度(B)</th><th>予測結果(A)+(B)</th></tr><tr><td rowspan="7">二酸化硫黄 (ppm)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00003</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td><td rowspan="7">0.04 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00004</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00002</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00007</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00039</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">二酸化窒素 (ppm)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00001</td><td>0.003</td><td>0.003</td><td>0.012</td><td rowspan="7">0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.003</td><td>0.003</td><td>0.012</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00001</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.015</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00001</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.010</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00003</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.010</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00016</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.015</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00001</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td><td rowspan="7">0.10 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00001</td><td>0.013</td><td>0.013</td><td>0.033</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00001</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00001</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00002</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00013</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">塩化水素 (ppm)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00003</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td><td rowspan="7">0.02 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00004</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00002</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00007</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00039</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00010</td><td>0.0054</td><td>0.0055</td><td>—</td><td rowspan="7">0.6 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00014</td><td>0.0059</td><td>0.0060</td><td>—</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00008</td><td>0.0061</td><td>0.0062</td><td>—</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00006</td><td>0.0066</td><td>0.0067</td><td>—</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00024</td><td>0.0055</td><td>0.0057</td><td>—</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00132</td><td>0.0066</td><td>0.0079</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">水銀 (μg/m³)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00003</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td><td rowspan="7">0.04 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00004</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00002</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00007</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00039</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 注) ※1：二酸化窒素は日平均値の年間 98%値を、二酸化硫黄および浮遊粒子状物質は日平均値の年間 2%除外値を示す。 ※2：環境基準が定められているものは「大気の汚染に係る環境基準について」または「二酸化窒素に係る環境基準について」における環境基準の値を、塩化水素については「許容限度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考とした値を、水銀については「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第七次答申）」に示された有害大気汚染物質に係る指針値をそれぞれ適用した。					項目	予測地点	年平均値			日平均値 ^{※1}	環境保全目標値 ^{※2}	寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果(A)+(B)	二酸化硫黄 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.002	0.002	0.003	0.04 以下	大依公会堂	0.00004	0.002	0.002	0.003	八島公会堂	0.00002	0.002	0.002	0.003	田根小学校	0.00002	0.002	0.002	0.003	木尾町運動場	0.00007	0.002	0.002	0.003	最大着地濃度地点	0.00039	0.002	0.002	0.003						二酸化窒素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00001	0.003	0.003	0.012	0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下	大依公会堂	0.00002	0.003	0.003	0.012	八島公会堂	0.00001	0.005	0.005	0.015	田根小学校	0.00001	0.002	0.002	0.010	木尾町運動場	0.00003	0.002	0.002	0.010	最大着地濃度地点	0.00016	0.005	0.005	0.015						浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	対象事業実施区域近傍	0.00001	0.014	0.014	0.035	0.10 以下	大依公会堂	0.00001	0.013	0.013	0.033	八島公会堂	0.00001	0.014	0.014	0.035	田根小学校	0.00001	0.014	0.014	0.035	木尾町運動場	0.00002	0.014	0.014	0.035	最大着地濃度地点	0.00013	0.014	0.014	0.035						塩化水素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.001	0.001	—	0.02 以下	大依公会堂	0.00004	0.001	0.001	—	八島公会堂	0.00002	0.001	0.001	—	田根小学校	0.00002	0.001	0.001	—	木尾町運動場	0.00007	0.001	0.001	—	最大着地濃度地点	0.00039	0.001	0.001	—						ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	対象事業実施区域近傍	0.00010	0.0054	0.0055	—	0.6 以下	大依公会堂	0.00014	0.0059	0.0060	—	八島公会堂	0.00008	0.0061	0.0062	—	田根小学校	0.00006	0.0066	0.0067	—	木尾町運動場	0.00024	0.0055	0.0057	—	最大着地濃度地点	0.00132	0.0066	0.0079	—						水銀 (μg/m ³)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.004	0.004	—	0.04 以下	大依公会堂	0.00004	0.004	0.004	—	八島公会堂	0.00002	0.004	0.004	—	田根小学校	0.00002	0.004	0.004	—	木尾町運動場	0.00007	0.004	0.004	—	最大着地濃度地点	0.00039	0.004	0.004	—					
項目	予測地点	年平均値					日平均値 ^{※1}	環境保全目標値 ^{※2}																																																																																																																																																																																																																																				
		寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果(A)+(B)																																																																																																																																																																																																																																								
二酸化硫黄 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.002	0.002	0.003	0.04 以下																																																																																																																																																																																																																																						
	大依公会堂	0.00004	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																																																							
	八島公会堂	0.00002	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																																																							
	田根小学校	0.00002	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																																																							
	木尾町運動場	0.00007	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																																																							
	最大着地濃度地点	0.00039	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																																																							
二酸化窒素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00001	0.003	0.003	0.012	0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下																																																																																																																																																																																																																																						
	大依公会堂	0.00002	0.003	0.003	0.012																																																																																																																																																																																																																																							
	八島公会堂	0.00001	0.005	0.005	0.015																																																																																																																																																																																																																																							
	田根小学校	0.00001	0.002	0.002	0.010																																																																																																																																																																																																																																							
	木尾町運動場	0.00003	0.002	0.002	0.010																																																																																																																																																																																																																																							
	最大着地濃度地点	0.00016	0.005	0.005	0.015																																																																																																																																																																																																																																							
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	対象事業実施区域近傍	0.00001	0.014	0.014	0.035	0.10 以下																																																																																																																																																																																																																																						
	大依公会堂	0.00001	0.013	0.013	0.033																																																																																																																																																																																																																																							
	八島公会堂	0.00001	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																																																							
	田根小学校	0.00001	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																																																							
	木尾町運動場	0.00002	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																																																							
	最大着地濃度地点	0.00013	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																																																							
塩化水素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.001	0.001	—	0.02 以下																																																																																																																																																																																																																																						
	大依公会堂	0.00004	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																																																							
	八島公会堂	0.00002	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																																																							
	田根小学校	0.00002	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																																																							
	木尾町運動場	0.00007	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																																																							
	最大着地濃度地点	0.00039	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																																																							
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	対象事業実施区域近傍	0.00010	0.0054	0.0055	—	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																						
	大依公会堂	0.00014	0.0059	0.0060	—																																																																																																																																																																																																																																							
	八島公会堂	0.00008	0.0061	0.0062	—																																																																																																																																																																																																																																							
	田根小学校	0.00006	0.0066	0.0067	—																																																																																																																																																																																																																																							
	木尾町運動場	0.00024	0.0055	0.0057	—																																																																																																																																																																																																																																							
	最大着地濃度地点	0.00132	0.0066	0.0079	—																																																																																																																																																																																																																																							
水銀 (μg/m ³)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.004	0.004	—	0.04 以下																																																																																																																																																																																																																																						
	大依公会堂	0.00004	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																																																							
	八島公会堂	0.00002	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																																																							
	田根小学校	0.00002	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																																																							
	木尾町運動場	0.00007	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																																																							
	最大着地濃度地点	0.00039	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																																																							

注) ※1：二酸化窒素は日平均値の年間 98%値を、二酸化硫黄および浮遊粒子状物質は日平均値の年間 2%除外値を示す。
※2：環境基準が定められているものは「大気汚染に係る環境基準について」または「二酸化窒素に係る環境基準について」における環境基準の値を、塩化水素については「許容限度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考とした値を、水銀については「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第七次答申）」に示された有害大気汚染物質に係る指針値をそれぞれ適用した。

表 11-3 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																																																																																																																																																																															
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																	
大気質	大気質 (二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、その他の物質)	施設の稼働	(前ページ参照)	4. 評価結果 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 ＜長期平均濃度：焼却施設（単独影響）、焼却施設＋バイオガス化施設（複合影響）＞ 二酸化硫黄の日平均値の年間 2%除外値は、最大着地濃度地点で 0.003～0.004ppm であり、環境保全目標値とした「0.04ppm 以下」を満足する値となった。 二酸化窒素の日平均値の年間 98%値は、最大着地濃度地点で 0.015～0.017ppm であり、環境保全目標値とした「0.04～0.06ppm のゾーン内またはそれ以下」を満足する値となった。 浮遊粒子状物質の日平均値の年間 2%除外値は、最大着地濃度地点で 0.035mg/m³であり、環境保全目標値とした「0.10mg/m³ 以下」を満足する値となった。 塩化水素の予測結果は、最大着地濃度地点で 0.001ppm であり、環境保全目標値とした「0.02ppm 以下」を満足する値となった。 ダイオキシン類の予測結果は、最大着地濃度地点（対象事業実施区域南東側の本施設から約 400m）で 0.0079pg-TEQ/m³であり、環境保全目標値とした「0.6pg-TEQ/m³ 以下」を満足する値となった。 水銀の予測結果は、最大着地濃度地点で 0.004μg/m³あり、環境保全目標値とした「0.04μg/m³ 以下」を満足する値となった。 以上の結果より、施設の稼働に伴う二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類および水銀の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。																																																																																																																																																																																																															
				＜施設の稼働に伴う大気質の予測・評価結果（長期平均濃度：焼却施設＋バイオガス化施設）＞ <table><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">予測地点</th><th colspan="3">年平均値</th><th rowspan="2">日平均値^{※1}</th><th rowspan="2">環境保全目標値^{※2}</th></tr><tr><th>寄与濃度(A)</th><th>バックグラウンド濃度(B)</th><th>予測結果(A)+(B)</th></tr><tr><td rowspan="6">二酸化硫黄 (ppm)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00009</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td><td rowspan="6">0.04 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00005</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00006</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00003</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00009</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.003</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00058</td><td>0.002</td><td>0.003</td><td>0.004</td></tr><tr><td rowspan="6">二酸化窒素 (ppm)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00008</td><td>0.003</td><td>0.003</td><td>0.012</td><td rowspan="6">0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00004</td><td>0.003</td><td>0.003</td><td>0.012</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00008</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.015</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00004</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.010</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00006</td><td>0.002</td><td>0.002</td><td>0.010</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00054</td><td>0.005</td><td>0.006</td><td>0.017</td></tr><tr><td rowspan="6">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00004</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td><td rowspan="6">0.10 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.013</td><td>0.013</td><td>0.033</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00003</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00001</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00003</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00026</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.035</td></tr><tr><td rowspan="6">塩化水素 (ppm)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00003</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td><td rowspan="6">0.02 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00004</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00002</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00007</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00039</td><td>0.001</td><td>0.001</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="6">ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00010</td><td>0.0054</td><td>0.0055</td><td>—</td><td rowspan="6">0.6 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00014</td><td>0.0059</td><td>0.0060</td><td>—</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00008</td><td>0.0061</td><td>0.0062</td><td>—</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00006</td><td>0.0066</td><td>0.0067</td><td>—</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00024</td><td>0.0055</td><td>0.0057</td><td>—</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00132</td><td>0.0066</td><td>0.0079</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="6">水銀 (μg/m³)</td><td>対象事業実施区域近傍</td><td>0.00003</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td><td rowspan="6">0.04 以下</td></tr><tr><td>大依公会堂</td><td>0.00004</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>八島公会堂</td><td>0.00002</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>田根小学校</td><td>0.00002</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>木尾町運動場</td><td>0.00007</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr><tr><td>最大着地濃度地点</td><td>0.00039</td><td>0.004</td><td>0.004</td><td>—</td></tr></table>										項目	予測地点	年平均値			日平均値 ^{※1}	環境保全目標値 ^{※2}	寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果(A)+(B)	二酸化硫黄 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00009	0.002	0.002	0.003	0.04 以下	大依公会堂	0.00005	0.002	0.002	0.003	八島公会堂	0.00006	0.002	0.002	0.003	田根小学校	0.00003	0.002	0.002	0.003	木尾町運動場	0.00009	0.002	0.002	0.003	最大着地濃度地点	0.00058	0.002	0.003	0.004	二酸化窒素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00008	0.003	0.003	0.012	0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下	大依公会堂	0.00004	0.003	0.003	0.012	八島公会堂	0.00008	0.005	0.005	0.015	田根小学校	0.00004	0.002	0.002	0.010	木尾町運動場	0.00006	0.002	0.002	0.010	最大着地濃度地点	0.00054	0.005	0.006	0.017	浮遊粒子状物質 (mg/m³)	対象事業実施区域近傍	0.00004	0.014	0.014	0.035	0.10 以下	大依公会堂	0.00002	0.013	0.013	0.033	八島公会堂	0.00003	0.014	0.014	0.035	田根小学校	0.00001	0.014	0.014	0.035	木尾町運動場	0.00003	0.014	0.014	0.035	最大着地濃度地点	0.00026	0.014	0.014	0.035	塩化水素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.001	0.001	—	0.02 以下	大依公会堂	0.00004	0.001	0.001	—	八島公会堂	0.00002	0.001	0.001	—	田根小学校	0.00002	0.001	0.001	—	木尾町運動場	0.00007	0.001	0.001	—	最大着地濃度地点	0.00039	0.001	0.001	—	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	対象事業実施区域近傍	0.00010	0.0054	0.0055	—	0.6 以下	大依公会堂	0.00014	0.0059	0.0060	—	八島公会堂	0.00008	0.0061	0.0062	—	田根小学校	0.00006	0.0066	0.0067	—	木尾町運動場	0.00024	0.0055	0.0057	—	最大着地濃度地点	0.00132	0.0066	0.0079	—	水銀 (μg/m³)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.004	0.004	—	0.04 以下	大依公会堂	0.00004	0.004	0.004	—	八島公会堂	0.00002	0.004	0.004	—	田根小学校	0.00002	0.004	0.004	—	木尾町運動場	0.00007	0.004	0.004	—	最大着地濃度地点
項目	予測地点	年平均値			日平均値 ^{※1}	環境保全目標値 ^{※2}																																																																																																																																																																																																													
		寄与濃度(A)	バックグラウンド濃度(B)	予測結果(A)+(B)																																																																																																																																																																																																															
二酸化硫黄 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00009	0.002	0.002	0.003	0.04 以下																																																																																																																																																																																																													
	大依公会堂	0.00005	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																														
	八島公会堂	0.00006	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																														
	田根小学校	0.00003	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																														
	木尾町運動場	0.00009	0.002	0.002	0.003																																																																																																																																																																																																														
	最大着地濃度地点	0.00058	0.002	0.003	0.004																																																																																																																																																																																																														
二酸化窒素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00008	0.003	0.003	0.012	0.04～0.06までのゾーン内またはそれ以下																																																																																																																																																																																																													
	大依公会堂	0.00004	0.003	0.003	0.012																																																																																																																																																																																																														
	八島公会堂	0.00008	0.005	0.005	0.015																																																																																																																																																																																																														
	田根小学校	0.00004	0.002	0.002	0.010																																																																																																																																																																																																														
	木尾町運動場	0.00006	0.002	0.002	0.010																																																																																																																																																																																																														
	最大着地濃度地点	0.00054	0.005	0.006	0.017																																																																																																																																																																																																														
浮遊粒子状物質 (mg/m³)	対象事業実施区域近傍	0.00004	0.014	0.014	0.035	0.10 以下																																																																																																																																																																																																													
	大依公会堂	0.00002	0.013	0.013	0.033																																																																																																																																																																																																														
	八島公会堂	0.00003	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																														
	田根小学校	0.00001	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																														
	木尾町運動場	0.00003	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																														
	最大着地濃度地点	0.00026	0.014	0.014	0.035																																																																																																																																																																																																														
塩化水素 (ppm)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.001	0.001	—	0.02 以下																																																																																																																																																																																																													
	大依公会堂	0.00004	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																														
	八島公会堂	0.00002	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																														
	田根小学校	0.00002	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																														
	木尾町運動場	0.00007	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																														
	最大着地濃度地点	0.00039	0.001	0.001	—																																																																																																																																																																																																														
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)	対象事業実施区域近傍	0.00010	0.0054	0.0055	—	0.6 以下																																																																																																																																																																																																													
	大依公会堂	0.00014	0.0059	0.0060	—																																																																																																																																																																																																														
	八島公会堂	0.00008	0.0061	0.0062	—																																																																																																																																																																																																														
	田根小学校	0.00006	0.0066	0.0067	—																																																																																																																																																																																																														
	木尾町運動場	0.00024	0.0055	0.0057	—																																																																																																																																																																																																														
	最大着地濃度地点	0.00132	0.0066	0.0079	—																																																																																																																																																																																																														
水銀 (μg/m³)	対象事業実施区域近傍	0.00003	0.004	0.004	—	0.04 以下																																																																																																																																																																																																													
	大依公会堂	0.00004	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																														
	八島公会堂	0.00002	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																														
	田根小学校	0.00002	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																														
	木尾町運動場	0.00007	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																														
	最大着地濃度地点	0.00039	0.004	0.004	—																																																																																																																																																																																																														

注）※1：二酸化窒素は日平均値の年間 98%値を、二酸化硫黄および浮遊粒子状物質は日平均値の年間 2%除外値を示す。
※2：環境基準が定められているものは「大気の汚染に係る環境基準について」または「二酸化窒素に係る環境基準について」における環境基準の値を、塩化水素については「許容限度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考とした値を、水銀については「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第七次答申）」に示された有害大気汚染物質に係る指針値をそれぞれ適用した。

注) ※1：二酸化窒素は日平均値の年間98%値を、二酸化硫黄および浮遊粒子状物質は日平均値の年間2%除外値を示す。
※2：環境基準が定められているものは「大気の汚染に係る環境基準について」または「二酸化窒素に係る環境基準について」における環境基準の値を、塩化水素については「許容限度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考とした値を、水銀については「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第七次答申）」に示された有害大気汚染物質に係る指針値をそれぞれ適用した。

表 11-4 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																																																																																																																																																																																																			
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																																																																																																																																																																																																					
大気質	大気質（二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、その他の物質）	施設の稼働	(前ページ参照)	<短期濃度（1 時間値）> 1.予測結果 ・一般的な気象条件時 一般的な気象条件時の短期寄与濃度の最大値は煙突の風下約 560m の位置に出現し、バックグラウンド濃度と短期寄与濃度の最大値を足し合わせた予測結果は二酸化硫黄が [※] 0.016ppm、二酸化窒素が [※] 0.027ppm、浮遊粒子状物質が [※] 0.078mg/m ³ 、ダイオキシン類が [※] 0.016pg-TEQ/m ³ 、塩化水素が [※] 0.003ppm、水銀およびその化合物が [※] 0.006μg/m ³ となった。 ・上層逆転層発生時 上層逆転層発生時の短期寄与濃度の最大値は煙突の風下約 560m の位置に出現し、バックグラウンド濃度と短期寄与濃度の最大値を足し合わせた予測結果は二酸化硫黄が [※] 0.018ppm、二酸化窒素が [※] 0.030ppm、浮遊粒子状物質が [※] 0.079mg/m ³ 、ダイオキシン類が [※] 0.023pg-TEQ/m ³ 、塩化水素が [※] 0.005ppm、水銀が [※] 0.008μg/m ³ となった。 ・煙突ダウンウォッシュ発生時 煙突ダウンウォッシュ発生時の短期寄与濃度の最大値は、煙突の風下約 660m（二酸化窒素は約 690m）の位置に出現し、バックグラウンド濃度と短期寄与濃度の最大値を足し合わせた予測結果は二酸化硫黄が [※] 0.014ppm、二酸化窒素が [※] 0.023ppm、浮遊粒子状物質が [※] 0.077mg/m ³ 、ダイオキシン類が [※] 0.011pg-TEQ/m ³ 、塩化水素が [※] 0.002ppm、水銀が [※] 0.005μg/m ³ となった。 ・建物ダウンウォッシュ発生時 ダウンウォッシュ・ダウンドラフト発生時の短期寄与濃度の最大値は、煙突の風下約 400m（二酸化窒素は約 410m）の位置に出現し、バックグラウンド濃度と短期寄与濃度の最大値を足し合わせた予測結果は二酸化硫黄が [※] 0.015ppm、二酸化窒素が [※] 0.025ppm、浮遊粒子状物質が [※] 0.078mg/m ³ 、ダイオキシン類が [※] 0.014pg-TEQ/m ³ 、塩化水素が [※] 0.003ppm、水銀が [※] 0.006μg/m ³ となった。 ・フュミゲーション発生時 フュミゲーション発生時の短期寄与濃度の最大値は煙突の風下約 240m の位置に出現し、バックグラウンド濃度と短期寄与濃度の最大値を足し合わせた予測結果は二酸化硫黄が [※] 0.024ppm、二酸化窒素が [※] 0.034ppm、浮遊粒子状物質が [※] 0.081mg/m ³ 、ダイオキシン類が [※] 0.046pg-TEQ/m ³ 、塩化水素が [※] 0.012ppm、水銀が [※] 0.015μg/m ³ となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・排ガス処理設備：最新の排ガス処理設備を採用するとともに、適切な燃焼管理や薬剤噴霧等により、排ガス中に含まれる大気汚染物質の排出抑制を行う。 ・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。 ・排ガス濃度等の情報公開：排ガス濃度等の計測により適正な施設稼働を確認するとともに、情報公開に努め、一般市民が本施設の運転状況を確認できるようにする。 3.事後調査 想定される予測条件に幅があるため、複数の予測条件を設定した幅のある予測結果となっているが、採用した予測の手法は、その予測精度に係る知見・事例等が十分に蓄積されているものであるため、この幅を大きく逸脱する可能性は小さいと考えられること、採用する環境保全措置の効果は知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 なお、滋賀県環境影響評価技術指針における事後調査の要件に該当しないが、大気汚染防止法等の関係法令に基づき、環境監視調査として、排ガス濃度の測定を継続的に実施する。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、施設の稼働に伴う大気質への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 施設の稼働に伴う二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀の 1 時間値の予測結果は上記に示すとおり、環境保全目標値を下回ることから、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。																																																																																																																																																																																																																																			
				<施設の稼働に伴う大気質の予測・評価結果（1 時間値）> <table><tr><th rowspan="3">気象条件</th><th rowspan="3">項 目</th><th colspan="3">1 時間値</th><th rowspan="3">予測結果 (A+B)</th><th rowspan="3">環境保全目標値^{※1}</th></tr><tr><th colspan="2">寄与濃度</th><th rowspan="2">バックグラウンド濃度 (B)</th></tr><tr><th>焼却施設</th><th>バイオガス化施設</th><th>合計 (A)</th></tr><tr><td rowspan="6">一般的な気象条件時</td><td>二酸化硫黄 (ppm)</td><td>0.0021</td><td>0.0008</td><td>0.0029</td><td>0.013</td><td>0.016</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>0.0027</td><td>0.0031</td><td>0.0058</td><td>0.021</td><td>0.027</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>0.0007</td><td>0.0004</td><td>0.0011</td><td>0.077</td><td>0.078</td><td>0.20以下</td></tr><tr><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.0071</td><td>—</td><td>0.0071</td><td>0.0084</td><td>0.016</td><td>0.6 以下</td></tr><tr><td>塩化水素 (ppm)</td><td>0.0021</td><td>—</td><td>0.0021</td><td>0.001</td><td>0.003</td><td>0.02以下</td></tr><tr><td>水銀 (μg/m³)</td><td>0.0021</td><td>—</td><td>0.0021</td><td>0.004</td><td>0.006</td><td>0.04以下</td></tr><tr><td rowspan="6">上層逆転層発生時</td><td>二酸化硫黄 (ppm)</td><td>0.0044</td><td>0.0008</td><td>0.0052</td><td>0.013</td><td>0.018</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>0.0055</td><td>0.0033</td><td>0.0088</td><td>0.021</td><td>0.030</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>0.0015</td><td>0.0004</td><td>0.0019</td><td>0.077</td><td>0.079</td><td>0.20以下</td></tr><tr><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.015</td><td>—</td><td>0.015</td><td>0.0084</td><td>0.023</td><td>0.6 以下</td></tr><tr><td>塩化水素 (ppm)</td><td>0.0044</td><td>—</td><td>0.0044</td><td>0.001</td><td>0.005</td><td>0.02以下</td></tr><tr><td>水銀 (μg/m³)</td><td>0.0044</td><td>—</td><td>0.0044</td><td>0.004</td><td>0.008</td><td>0.04以下</td></tr><tr><td rowspan="6">煙突ダウンウォッシュ発生時^{※2}</td><td>二酸化硫黄 (ppm)</td><td>0.0007</td><td>0.0002</td><td>0.0009</td><td>0.013</td><td>0.014</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>0.0009</td><td>0.0009</td><td>0.0018</td><td>0.021</td><td>0.023</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>0.0002</td><td>0.0001</td><td>0.0003</td><td>0.077</td><td>0.077</td><td>0.20以下</td></tr><tr><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.0023</td><td>—</td><td>0.0023</td><td>0.0084</td><td>0.011</td><td>0.6 以下</td></tr><tr><td>塩化水素 (ppm)</td><td>0.0007</td><td>—</td><td>0.0007</td><td>0.001</td><td>0.002</td><td>0.02以下</td></tr><tr><td>水銀 (μg/m³)</td><td>0.0007</td><td>—</td><td>0.0007</td><td>0.004</td><td>0.005</td><td>0.04以下</td></tr><tr><td rowspan="6">建物ダウンウォッシュ発生時^{※2}</td><td>二酸化硫黄 (ppm)</td><td>0.0017</td><td>0.0005</td><td>0.0022</td><td>0.013</td><td>0.015</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>0.0021</td><td>0.0021</td><td>0.0042</td><td>0.021</td><td>0.025</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>0.0006</td><td>0.0002</td><td>0.0008</td><td>0.077</td><td>0.078</td><td>0.20以下</td></tr><tr><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.0055</td><td>—</td><td>0.0055</td><td>0.0084</td><td>0.014</td><td>0.6 以下</td></tr><tr><td>塩化水素 (ppm)</td><td>0.0017</td><td>—</td><td>0.0017</td><td>0.001</td><td>0.003</td><td>0.02以下</td></tr><tr><td>水銀 (μg/m³)</td><td>0.0017</td><td>—</td><td>0.0017</td><td>0.004</td><td>0.006</td><td>0.04以下</td></tr><tr><td rowspan="6">フュミゲーション発生時</td><td>二酸化硫黄 (ppm)</td><td>0.0114</td><td>0.0000</td><td>0.0114</td><td>0.013</td><td>0.024</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>二酸化窒素 (ppm)</td><td>0.0131</td><td>0.0000</td><td>0.0131</td><td>0.021</td><td>0.034</td><td>0.1 以下</td></tr><tr><td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>0.0038</td><td>0.0000</td><td>0.0038</td><td>0.077</td><td>0.081</td><td>0.20以下</td></tr><tr><td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td><td>0.038</td><td>—</td><td>0.038</td><td>0.0084</td><td>0.046</td><td>0.6 以下</td></tr><tr><td>塩化水素 (ppm)</td><td>0.0114</td><td>—</td><td>0.0114</td><td>0.001</td><td>0.012</td><td>0.02以下</td></tr><tr><td>水銀 (μg/m³)</td><td>0.0114</td><td>—</td><td>0.0114</td><td>0.004</td><td>0.015</td><td>0.04以下</td></tr></table>				気象条件	項 目	1 時間値			予測結果 (A+B)	環境保全目標値 ^{※1}	寄与濃度		バックグラウンド濃度 (B)	焼却施設	バイオガス化施設	合計 (A)	一般的な気象条件時	二酸化硫黄 (ppm)	0.0021	0.0008	0.0029	0.013	0.016	0.1 以下	二酸化窒素 (ppm)	0.0027	0.0031	0.0058	0.021	0.027	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0007	0.0004	0.0011	0.077	0.078	0.20以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0071	—	0.0071	0.0084	0.016	0.6 以下	塩化水素 (ppm)	0.0021	—	0.0021	0.001	0.003	0.02以下	水銀 (μg/m ³)	0.0021	—	0.0021	0.004	0.006	0.04以下	上層逆転層発生時	二酸化硫黄 (ppm)	0.0044	0.0008	0.0052	0.013	0.018	0.1 以下	二酸化窒素 (ppm)	0.0055	0.0033	0.0088	0.021	0.030	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0015	0.0004	0.0019	0.077	0.079	0.20以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.015	—	0.015	0.0084	0.023	0.6 以下	塩化水素 (ppm)	0.0044	—	0.0044	0.001	0.005	0.02以下	水銀 (μg/m ³)	0.0044	—	0.0044	0.004	0.008	0.04以下	煙突ダウンウォッシュ発生時 ^{※2}	二酸化硫黄 (ppm)	0.0007	0.0002	0.0009	0.013	0.014	0.1 以下	二酸化窒素 (ppm)	0.0009	0.0009	0.0018	0.021	0.023	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0002	0.0001	0.0003	0.077	0.077	0.20以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0023	—	0.0023	0.0084	0.011	0.6 以下	塩化水素 (ppm)	0.0007	—	0.0007	0.001	0.002	0.02以下	水銀 (μg/m ³)	0.0007	—	0.0007	0.004	0.005	0.04以下	建物ダウンウォッシュ発生時 ^{※2}	二酸化硫黄 (ppm)	0.0017	0.0005	0.0022	0.013	0.015	0.1 以下	二酸化窒素 (ppm)	0.0021	0.0021	0.0042	0.021	0.025	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0006	0.0002	0.0008	0.077	0.078	0.20以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0055	—	0.0055	0.0084	0.014	0.6 以下	塩化水素 (ppm)	0.0017	—	0.0017	0.001	0.003	0.02以下	水銀 (μg/m ³)	0.0017	—	0.0017	0.004	0.006	0.04以下	フュミゲーション発生時	二酸化硫黄 (ppm)	0.0114	0.0000	0.0114	0.013	0.024	0.1 以下	二酸化窒素 (ppm)	0.0131	0.0000	0.0131	0.021	0.034	0.1 以下	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0038	0.0000	0.0038	0.077	0.081	0.20以下	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.038	—	0.038	0.0084	0.046	0.6 以下	塩化水素 (ppm)	0.0114	—	0.0114	0.001	0.012	0.02以下	水銀 (μg/m ³)	0.0114	—
気象条件	項 目	1 時間値			予測結果 (A+B)	環境保全目標値 ^{※1}																																																																																																																																																																																																																																	
		寄与濃度		バックグラウンド濃度 (B)																																																																																																																																																																																																																																			
		焼却施設	バイオガス化施設				合計 (A)																																																																																																																																																																																																																																
一般的な気象条件時	二酸化硫黄 (ppm)	0.0021	0.0008	0.0029	0.013	0.016	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	二酸化窒素 (ppm)	0.0027	0.0031	0.0058	0.021	0.027	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0007	0.0004	0.0011	0.077	0.078	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0071	—	0.0071	0.0084	0.016	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																
	塩化水素 (ppm)	0.0021	—	0.0021	0.001	0.003	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																
	水銀 (μg/m ³)	0.0021	—	0.0021	0.004	0.006	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																
上層逆転層発生時	二酸化硫黄 (ppm)	0.0044	0.0008	0.0052	0.013	0.018	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	二酸化窒素 (ppm)	0.0055	0.0033	0.0088	0.021	0.030	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0015	0.0004	0.0019	0.077	0.079	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.015	—	0.015	0.0084	0.023	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																
	塩化水素 (ppm)	0.0044	—	0.0044	0.001	0.005	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																
	水銀 (μg/m ³)	0.0044	—	0.0044	0.004	0.008	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																
煙突ダウンウォッシュ発生時 ^{※2}	二酸化硫黄 (ppm)	0.0007	0.0002	0.0009	0.013	0.014	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	二酸化窒素 (ppm)	0.0009	0.0009	0.0018	0.021	0.023	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0002	0.0001	0.0003	0.077	0.077	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0023	—	0.0023	0.0084	0.011	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																
	塩化水素 (ppm)	0.0007	—	0.0007	0.001	0.002	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																
	水銀 (μg/m ³)	0.0007	—	0.0007	0.004	0.005	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																
建物ダウンウォッシュ発生時 ^{※2}	二酸化硫黄 (ppm)	0.0017	0.0005	0.0022	0.013	0.015	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	二酸化窒素 (ppm)	0.0021	0.0021	0.0042	0.021	0.025	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0006	0.0002	0.0008	0.077	0.078	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0055	—	0.0055	0.0084	0.014	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																
	塩化水素 (ppm)	0.0017	—	0.0017	0.001	0.003	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																
	水銀 (μg/m ³)	0.0017	—	0.0017	0.004	0.006	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																
フュミゲーション発生時	二酸化硫黄 (ppm)	0.0114	0.0000	0.0114	0.013	0.024	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	二酸化窒素 (ppm)	0.0131	0.0000	0.0131	0.021	0.034	0.1 以下																																																																																																																																																																																																																																
	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0038	0.0000	0.0038	0.077	0.081	0.20以下																																																																																																																																																																																																																																
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.038	—	0.038	0.0084	0.046	0.6 以下																																																																																																																																																																																																																																
	塩化水素 (ppm)	0.0114	—	0.0114	0.001	0.012	0.02以下																																																																																																																																																																																																																																
	水銀 (μg/m ³)	0.0114	—	0.0114	0.004	0.015	0.04以下																																																																																																																																																																																																																																

注）※1：環境基準が定められているものは「大気の汚染に係る環境基準について」における環境基準の値を、短期高濃度時における二酸化窒素は「二酸化窒素の人の健康に係る判定条件等について」に示される短期暴露指針値の下限値を、塩化水素については「許容限度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考とした値を、水銀については「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第七次答申）」に示された有害大気汚染物質に係る指針値をそれぞれ適用した。

※2：複数の気象条件（風速ケース、大気安定度）で予測計算を実施し、その結果、最も焼却施設の影響が高濃度となる風速ケース、大気安定度での予測及び評価の結果を示した。（煙突ダウンウォッシュでは焼却施設の煙突高さで風速 12.7m/s、大気安定度 C、建物ダウンウォッシュでは焼却施設の煙突高さで風速 2.5m/s、大気安定度 A）

注）※1：環境基準が定められているものは「大気の汚染に係る環境基準について」における環境基準の値を、短期高濃度時における二酸化窒素は「二酸化窒素の人の健康に係る判定条件等について」に示される短期暴露指針値の下限值を、塩化水素については「許容限度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考とした値を、水銀については「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第七次答申）」に示された有害大気汚染物質に係る指針値をそれぞれ適用した。

※2：複数の気象条件（風速ケース、大気安定度）で予測計算を実施し、その結果、最も焼却施設の影響が高濃度となる風速ケース、大気安定度での予測及び評価の結果を示した。（煙突ダウンウォッシュでは焼却施設の煙突高さで風速 12.7m/s、大気安定度 C、建物ダウンウォッシュでは焼却施設の煙突高さで風速 2.5m/s、大気安定度 A）

表 11-5 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																										
	環境要素の区分	影響要因の区分																																																												
大気質	大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質）	施設関連車両の走行	(前ページ参照)	1.予測結果 施設関連車両の走行に係る寄与濃度の年平均値は、二酸化窒素が 0.000075～0.000076ppm、浮遊粒子状物質が 0.000003mg/m³ となった。また、バックグラウンド濃度と寄与濃度を足し合わせた予測結果は、二酸化窒素が 0.005～0.007ppm、浮遊粒子状物質が 0.014mg/m³ となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・施設関連車両台数の低減：ごみ減量対策を推進し、運搬・持込車両の台数低減に努める。 ・車両の維持管理：施設関連車両の維持管理を徹底し、車両排ガス等を適正に保つ。 ・運転手の教育・指導：施設関連車両の走行にあたっては、積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 二酸化窒素の年平均値は、0.005～0.007ppm、浮遊粒子状物質の年平均値は、0.014mg/m³ となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 二酸化窒素の日平均値の年間 98％値は、0.019～0.021ppm であり、どの地点も環境保全目標値とした「0.04～0.06ppm のゾーン内またはそれ以下」を満足する値となる。 また、浮遊粒子状物質の日平均値の年間 2%除外値は、0.037mg/m³ であり、どの地点も環境保全目標値とした「0.10mg/m³ 以下」を満足する値となる。 以上の結果より、施設関連車両の走行に伴う二酸化窒素および浮遊粒子状物質の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。 <table><caption>＜施設関連車両の走行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測・評価結果＞</caption><thead><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">予測地点</th><th colspan="3">寄与濃度</th><th rowspan="2">バックグラウンド濃度</th><th rowspan="2">予測結果 (年平均値)</th><th rowspan="2">日平均値の年間 98%値または 日平均値の年間 2%除外値</th><th rowspan="2">環境保全目標値*</th></tr><tr><th>基礎交通量</th><th>施設関連車両</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">二酸化窒素 (ppm)</td><td>県道 276 号（木尾南集落）</td><td>0.000133</td><td>0.000076</td><td>0.000209</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.019</td><td rowspan="3">0.04～0.06 のゾーン内 またはそれ以下</td></tr><tr><td>国道 365 号（浅井福祉センター）</td><td>0.001541</td><td>0.000075</td><td>0.001616</td><td>0.005</td><td>0.007</td><td>0.021</td></tr><tr><td>県道 276 号（浅井体育館）</td><td>0.000274</td><td>0.000076</td><td>0.000350</td><td>0.005</td><td>0.005</td><td>0.019</td></tr><tr><td rowspan="3">浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td><td>県道 276 号（木尾南集落）</td><td>0.000005</td><td>0.000003</td><td>0.000008</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.037</td><td rowspan="3">0.10 以下</td></tr><tr><td>国道 365 号（浅井福祉センター）</td><td>0.000056</td><td>0.000003</td><td>0.000059</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.037</td></tr><tr><td>県道 276 号（浅井体育館）</td><td>0.000010</td><td>0.000003</td><td>0.000013</td><td>0.014</td><td>0.014</td><td>0.037</td></tr></tbody></table> 注）※：「二酸化窒素に係る環境基準について」および「大気の汚染に係る環境基準について」の環境基準の値を適用した。	項目	予測地点	寄与濃度			バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	日平均値の年間 98%値または 日平均値の年間 2%除外値	環境保全目標値*	基礎交通量	施設関連車両	合計	二酸化窒素 (ppm)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000133	0.000076	0.000209	0.005	0.005	0.019	0.04～0.06 のゾーン内 またはそれ以下	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.001541	0.000075	0.001616	0.005	0.007	0.021	県道 276 号（浅井体育館）	0.000274	0.000076	0.000350	0.005	0.005	0.019	浮遊粒子状物質 (mg/m³)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000005	0.000003	0.000008	0.014	0.014	0.037	0.10 以下	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.000056	0.000003	0.000059	0.014	0.014	0.037	県道 276 号（浅井体育館）	0.000010	0.000003	0.000013	0.014	0.014	0.037
				項目			予測地点	寄与濃度						バックグラウンド濃度	予測結果 (年平均値)	日平均値の年間 98%値または 日平均値の年間 2%除外値		環境保全目標値*																																												
基礎交通量	施設関連車両	合計																																																												
二酸化窒素 (ppm)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000133	0.000076	0.000209	0.005	0.005	0.019	0.04～0.06 のゾーン内 またはそれ以下																																																						
	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.001541	0.000075	0.001616	0.005	0.007	0.021																																																							
	県道 276 号（浅井体育館）	0.000274	0.000076	0.000350	0.005	0.005	0.019																																																							
浮遊粒子状物質 (mg/m³)	県道 276 号（木尾南集落）	0.000005	0.000003	0.000008	0.014	0.014	0.037	0.10 以下																																																						
	国道 365 号（浅井福祉センター）	0.000056	0.000003	0.000059	0.014	0.014	0.037																																																							
	県道 276 号（浅井体育館）	0.000010	0.000003	0.000013	0.014	0.014	0.037																																																							
大気質（粉じん等）	施設の稼働	(前ページ参照)	1.予測結果 リサイクル施設の稼働に伴う粉じんの予測結果は、リサイクル施設に係る類似施設の敷地境界および周辺民家における粉じんの調査結果によると、調査期間平均値は、類似施設の敷地境界が 0.020mg/m³、類似施設の周辺民家が 0.024mg/m³ となっており、周辺民家地点と概ね同様であり、対象施設におけるリサイクル施設からの影響は生じていない。類似施設から周辺民家までの距離は約 100m であるが、対象事業実施区域から最寄り住居までの距離は約 350m と距離が離れている。 また、本リサイクル施設は、上記の類似施設と同様に建屋で囲われた構造となっており、直接、処理過程で生じる粉じんが周辺に飛散することはない。さらに、施設内で発生した粉じんは、集じんダクトで吸引を行い、集じん装置、バグフィルタにより除去したうえで、施設外へ排出する。 以上より、周辺に及ぼす粉じんの影響は極めて小さいものと予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・施設を建屋で囲う：粉じんを発生させるおそれのある破砕処理設備は建屋で囲い、処理過程で生じる粉じんを周辺に飛散させない。 ・除じん設備の設置：施設内で発生した粉じんは、集じんダクトで吸引を行い、集じん装置、バグフィルタにより除去する。 ・散水の実施：施設内では、必要に応じ、適宜散水を行う。 3.事後調査 予測にあたっては、類似施設において測定された粉じん等の調査結果を用いており、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、リサイクル施設の稼働に伴う粉じんの影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。																																																											

表 11-6 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等
	環境要素の区分	影響要因の区分		
騒音	騒音	重機の稼働	・環境騒音 対象事業実施区域敷地境界では、平日昼間が48dB、平日夜間が38dB、休日昼間が47dB、休日夜間が36dBであり、いずれも環境基準値以下であった。 1.対象事業実施区域近傍では、平日昼間が 43dB、平日夜間が 40dB、休日昼間が45dB、休日夜間が38dBであり、いずれも環境基準値以下であった。 ・道路交通騒音 A.県道 276 号（木尾南集落）では、平日昼間が 65dB、平日夜間が 54dB、休日昼間が 63dB、休日夜間が 52dB であり、いずれも環境基準値以下であった。 B.国道 365 号（浅井福祉センター）では、平日昼間が 71dB、平日夜間が 70dB、休日昼間が 70dB、休日夜間が 67dB であり、平日の昼間、夜間および休日の夜間が当該基準値を上回っていた。 C.県道 276 号（浅井体育館）では、平日昼間が 65dB、平日夜間が 56dB、休日昼間が 64dB、休日夜間が 56dB であり、いずれも環境基準値以下であった。	1.予測結果 工事の実施による重機の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、敷地境界（東側敷地境界）で 71dB（L_{A5}）、最寄住居で 54dB（L_{Aeq}）となった。なお、騒音レベルは、最寄住居および対象事業実施区域の間には尾根地形が存在することから、回折減衰等により、さらに予測結果より低減すると考えられる。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・低騒音型建設機械の採用：建設工事に使用する重機（建設機械）は、低騒音型の建設機械を採用するよう努める。 ・教育指導の実施：アイドリングストップの徹底や空ぶかしの禁止、重機に過剰な負荷をかけないよう留意するなど、工事関係者に対して必要な教育・指導を行う。 ・仮囲いの設置：建設工事の期間中においては、必要な範囲に仮囲いを設置する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、敷地境界（東側敷地境界）で 71dB（L_{A5}）、最寄住居で 54dB（L_{Aeq}）となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、敷地境界（東側敷地境界）で 71dB（L_{A5}）であり、環境保全目標値とした「85dB」を満足する値となった。 また、最寄住居の予測結果は 54dB（L_{Aeq}）であり、環境保全目標値とした「55dB」を満足する値となった。 以上の結果より、重機の稼働に伴う騒音の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。
		工事用車両の走行		1.予測結果 工事用車両の走行に伴う騒音の予測結果は、工事用車両を付加した騒音レベルが 65～71dB となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、対象事業実施区域内で再利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 ・車両の維持管理：工事用車両の維持管理を徹底し、過剰な騒音の発生を防止する。 ・運転手の教育・指導：工事用車両の走行にあたっては、積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、工事用車両を付加した騒音レベルが 65～71dB、工事用車両による増加分が 0（1 未満）～2dB となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、平日の国道 365 号（浅井福祉センター）を除く地点は環境保全目標値とした「70dB」を満足する値となった。また、平日の国道 365 号（浅井福祉センター）についても、現況騒音と比較して増加分は 0dB（1dB 未満）であることから、事業により現況を著しく悪化させるものではない。 以上の結果より、工事用車両の走行に伴う騒音の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。

<重機の稼働に伴う建設作業騒音の予測・評価結果（最大地点）>

[単位：dB]

最大となる地点	騒音レベル（ L_{A5} ）	環境保全目標値*
東側敷地境界	71	85

注）※：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」を適用した。

<重機の稼働に伴う建設作業騒音の予測・評価結果（最寄住居）>

[単位：dB]

予測地点	平日休日の別	寄与分 (実効騒音レベル) (L_{Aeff}) ①	現況値 (L_{Aeff}) ②	予測結果 (L_{Aeq}) (①・②)	環境保全 目標値*
最寄住居	平日	54	43	54	55
	休日	54	45	54	55

注 1) 時間区分は、昼間（6 時～22 時）。

注 2) ※：「騒音に係る環境基準」の B 類型の昼間（6:00-22:00）の基準を適用した。

<工事用車両の走行に伴う道路交通騒音（ L_{Aeq} ）の予測・評価結果>

[単位：dB]

平日休日の別	予測地点	現況騒音 レベル	予測 結果	環境保全 目標値*	工事用車両 による増加分
平日	県道 276 号（木尾南集落）	65	66	70	1
	国道 365 号（浅井福祉センター）	71	71	70	0（1 未満）
	県道 276 号（浅井体育館）	65	66	70	1
休日	県道 276 号（木尾南集落）	63	65	70	2
	国道 365 号（浅井福祉センター）	70	70	70	0（1 未満）
	県道 276 号（浅井体育館）	64	65	70	1

注 1) **太字**は環境基準を上回る結果を示している。

注 2) 「騒音に係る環境基準」の B 類型の昼間（6:00-22:00）の基準を適用した。

表 11-7 環境影響評価の一覧

環境要素の区分

項目

環境要素の区分

影響要因の区分

調査結果

騒音

騒音

施設の稼働

（前ページ参照）

1.予測結果

施設の稼働に伴う騒音レベルの予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で 44dB（ L_{A5} ）、最寄住居で 38～45dB（ L_{Aeq} ）となった。なお、騒音レベルは、最寄住居および対象事業実施区域の間には尾根地形が存在することから、回折減衰等により、さらに予測結果より低減すると考えられる。

2.環境保全措置の検討

環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。

・低騒音型設備機器の採用と配置

低騒音型の設備機器を採用するとともに、原則屋内に設置する。また、特に大きな音の発生する設備機器は、必要に応じ、吸音対策を施した室内に設置する。

・設備機器の維持管理

定期的な設備機器等の点検や異常が確認された機器類の修理・交換等、適切な維持管理を行う。

3.事後調査

採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。

なお、滋賀県環境影響評価技術指針における事後調査の要件に該当しないが、環境監視調査として、施設竣工時の騒音測定を実施する。

4.評価結果

・環境影響の回避・低減に係る評価

予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で 44dB（ L_{A5} ）、最寄住居で 38～45dB（ L_{Aeq} ）となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。

・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価

予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で 44dB（ L_{A5} ）であり、環境保全目標値とした「45～55dB」を満足する値となった。

また、最寄住居の予測結果は 38～45dB（ L_{Aeq} ）であり、環境保全目標値とした「45～55dB」を満足する値となった。

以上の結果より、施設の稼働に伴う騒音の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。

施設関連車両の走行

1.予測結果

施設関連車両の走行に伴う騒音の予測結果は、施設関連車両台数を付加した騒音レベルが 65～71dB となった。

2.環境保全措置の検討

環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。

・施設関連車両台数の低減

ごみ減量対策を推進し、運搬・持込車両の台数低減に努める。

・運転手の教育・指導

施設関連車両の走行にあたっては、走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。

・車両の維持管理

施設関連車両の維持管理を徹底し、過剰な騒音の発生を防止する。

3.事後調査

採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。

4.評価結果

・環境影響の回避・低減に係る評価

予測結果は、施設関連車両台数を付加した騒音レベルが 65～71dB、施設関連車両による増加分が 0（1 未満）～2dB となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。

・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価

予測結果は、平日の国道 365 号（浅井福祉センター）を除く地点は環境保全目標値とした「70dB」を満足する値となった。また、平日の国道 365 号（浅井福祉センター）についても、現況騒音と比較して増加分は 0dB（1dB 未満）であることから、事業により現況を著しく悪化させるものではない。

以上の結果より、施設関連車両の走行に伴う騒音の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。

＜施設の稼働に伴う騒音レベルの予測・評価結果（最大地点）＞

[単位：dB]

予測地点	区分	最大となる地点	予測結果（ L_{A5} ）	環境保全目標値（ L_{A5} ）※
最大地点（敷地境界）	朝	西側敷地境界	44	50
	昼間			55
	夕			50
	夜間			45

注）※：「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」（昼間については、朝・昼間・夕のうち最も厳しい朝の基準値）を適用した。

＜施設の稼働に伴う騒音レベルの予測・評価結果（最寄住居）＞

[単位：dB]

予測地点	区分		予測結果'（ L_{A5} ）	現況値'（ L_{Aeq} ）	予測結果'（ L_{Aeq} ）	環境保全目標値（ L_{Aeq} ）※
最寄住居	平日	昼間	25	43	43	55
		夜間		40	40	45
	休日	昼間		45	45	55
		夜間		38	38	45

注）※：「騒音に係る環境基準」の B 類型の基準を適用した。

＜施設関連車両の走行に伴う道路交通騒音（ L_{Aeq} ）の予測・評価結果＞

[単位：dB]

平日休日の別	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値※	施設関連車両による増加分
平日	県道 276 号（木尾南集落）	65	67	70	2
	国道 365 号（浅井福祉センター）	<u>71</u>	<u>71</u>	70	0（1 未満）
	県道 276 号（浅井体育館）	65	66	70	1
休日	県道 276 号（木尾南集落）	63	65	70	2
	国道 365 号（浅井福祉センター）	70	70	70	0（1 未満）
	県道 276 号（浅井体育館）	64	65	70	1

注 1）太字は環境基準を上回る結果を示している。

注 2）※：「騒音に係る環境基準」の B 類型の昼間（6:00-22:00）の基準を適用した。

表 11-8 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																				
	環境要素の区分	影響要因の区分																						
超低周波音	超低周波音	施設の稼働	・1～80Hz の 50%時間率音圧レベル(L_{50}) 対象事業実施区域敷地境界で平日が 57dB、休日が 57dB、1.対象事業実施区域近傍（一般環境）で平日が 58dB、休日が 55dB であり、いずれも参照値以下であった。 ・1～20Hz の G 特性 5%時間率音圧レベル(L_{G5}) 対象事業実施区域敷地境界で平日が 62dB、休日が 60dB、1.対象事業実施区域近傍（一般環境）で平日が 64dB、休日が 60dB であり、いずれも参照値以下であった。 ・G 特性音圧レベル(L_G) 対象事業実施区域敷地境界で平日が 78dB、休日が 78dB、1.対象事業実施区域近傍（一般環境）で平日が 80dB、休日が 78dB であり、いずれも参照値以下であった。	1.予測結果 施設の稼働に伴う超低周波音レベルの予測結果は、西側敷地境界で 91dB（L_G）、最寄住居で 64dB（L_G）となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・低騒音型・低振動型設備機器の採用と配置：低騒音・低振動型の設備機器を採用するとともに、原則屋内に設置する。また、特に大きな音の発生する設備機器は、必要に応じ、吸音対策を施した室内に設置する。 ・設備機器の維持管理：定期的な設備機器等の点検や異常が確認された機器類の修理・交換等、適切な維持管理を行う。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、西側敷地境界で 91dB（L_G）、最寄住居で 64dB（L_G）となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、西側敷地境界で 91dB（L_G）、最寄住居で 64dB（L_G）であり、環境保全目標値とした「92dB」を満足する値となった。 以上の結果より、施設の稼働に伴う超低周波音の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。																				
			<施設の稼働に伴う超低周波音（L_G）の予測・評価結果> [単位：dB] <table><tr><th>予測地点</th><th>予測結果</th><th>環境保全目標値[※]</th></tr><tr><td>西側敷地境界</td><td>91</td><td rowspan="2">92</td></tr><tr><td>最寄住居</td><td>64</td></tr></table> 注）※：「低周波音問題対応の手引書」に示される「心身に係る苦情に関する評価指針」（G 特性音圧レベル L_G で 92dB）の値を適用した。		予測地点	予測結果	環境保全目標値 [※]	西側敷地境界	91	92	最寄住居	64												
予測地点	予測結果	環境保全目標値 [※]																						
西側敷地境界	91	92																						
最寄住居	64																							
振動	振動	重機の稼働	・環境振動 対象事業実施区域敷地境界および 1.対象事業実施区域近傍では、振動レベル（L_{10}）は平日昼間、休日昼間が 25dB、平日夜間、休日夜間が 25dB 未満であり、いずれも振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値：55dB）以下であった。 ・道路交通振動 A.県道 276 号（木尾南集落）では、振動レベル（L_{10}）は平日昼間が 27dB、平日夜間が 25dB、休日昼間が 26dB、休日夜間が 25dB 未満で、いずれも要請限度値以下であった。 B.国道 365 号（浅井福祉センター）では、振動レベル（L_{10}）は平日昼間が 37dB、平日夜間が 36dB、休日昼間が 32dB、休日夜間が 27dB で、いずれも要請限度値以下であった。 C.県道 276 号（浅井体育館）では、振動レベル（L_{10}）は平日昼間が 31dB、平日夜間が 26dB、休日昼間が 27dB、休日夜間が 26dB であり、いずれも要請限度値以下であった。 ・地盤卓越振動数 各地点の地盤卓越振動数は 26.3～38.3Hz であった。	1.予測結果 工事の実施による重機の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で 50dB（L_{10}）、最寄住居で 28dB（L_{10}）となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・低振動型建設機械の採用：建設工事に使用する重機（建設機械）は、低振動型の建設機械を採用するよう努める。 ・教育指導の実施：アイドリングストップの徹底や空ぶかしの禁止、重機に過剰な負荷をかけないよう留意するなど、工事関係者に対して必要な教育・指導を行う。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で 50dB（L_{10}）、最寄住居で 28dB（L_{10}）となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で 50dB（L_{10}）であり、環境保全目標値とした「75dB」を満足する値となった。 また、最寄住居の予測結果は 28dB（L_{10}）であり、環境保全目標値とした「55dB」を満足する値となった。 以上の結果より、重機の稼働に伴う振動の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。																				
			<重機の稼働に伴う建設作業振動の予測・評価結果（最大地点）> [単位：dB] <table><tr><th>最大となる地点</th><th>振動レベル（L_{10}）</th><th>環境保全目標</th></tr><tr><td>西側敷地境界</td><td>50</td><td>75</td></tr></table> 注）※：「特定建設作業の規制に関する基準」を適用した。 <重機の稼働に伴う建設作業振動の予測・評価結果（最寄住居）> [単位：dB] <table><tr><th>予測地点</th><th>平日休日の別</th><th>寄与分（L_{10}）①</th><th>現況値（L_{10}）②</th><th>予測結果（L_{10}）（①・②）</th><th>環境保全目標値[※]</th></tr><tr><td rowspan="2">最寄住居</td><td>平日</td><td>25 未満</td><td>25 未満</td><td>28</td><td>55</td></tr><tr><td>休日</td><td>25 未満</td><td>25 未満</td><td>28</td><td>55</td></tr></table> 注）※：振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値：55dB）を適用した。		最大となる地点	振動レベル（ L_{10} ）	環境保全目標	西側敷地境界	50	75	予測地点	平日休日の別	寄与分（ L_{10} ）①	現況値（ L_{10} ）②	予測結果（ L_{10} ）（①・②）	環境保全目標値 [※]	最寄住居	平日	25 未満	25 未満	28	55	休日	25 未満
最大となる地点	振動レベル（ L_{10} ）	環境保全目標																						
西側敷地境界	50	75																						
予測地点	平日休日の別	寄与分（ L_{10} ）①	現況値（ L_{10} ）②	予測結果（ L_{10} ）（①・②）	環境保全目標値 [※]																			
最寄住居	平日	25 未満	25 未満	28	55																			
	休日	25 未満	25 未満	28	55																			

表 11-9 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等
	環境要素の区分	影響要因の区分		
振動	振動	工事用車両の走行	(前ページ参照)	1.予測結果 工事用車両の走行に伴う振動の予測結果は、工事用車両を付加した振動レベルが34～38dB となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 - 運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、対象事業実施区域内で再利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 - 車両の維持管理：工事用車両の維持管理を徹底し、過剰な騒音の発生を防止する。 - 運転手の教育・指導：工事用車両の走行にあたっては、積載量や走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 - 環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、工事用車両を付加した振動レベルが 34～38dB となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 - 環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、工事用車両を付加した振動レベルが 34～38dB となるため、環境保全目標値とした「60～65dB」を満足する値となった。 以上の結果より、工事用車両の走行に伴う振動の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。
		施設の稼働		1.予測結果 施設の稼働に伴う振動レベルの予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で54～55dB（L_{10}）、最寄住居で28dB（L_{10}）となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 - 振動発生機器の配慮：低振動型の設備機器を採用し、また、特に大きな振動源となる設備機器は、必要に応じ、強固な基礎や独立基礎上に設置する。 - 設備機器の維持管理：定期的な設備機器等の点検や異常が確認された機器類の修理・交換等、適切な維持管理を行う。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 - 環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で54～55dB（L_{10}）、最寄住居で28dB（L_{10}）となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 - 環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、敷地境界（西側敷地境界）で54～55dB（L_{10}）であり、環境保全目標値とした「55～60dB」を満足する値となった。 また、最寄住居の予測結果は28dB（L_{10}）であり、環境保全目標値とした「55dB」を満足する値となった。 以上の結果より、施設の稼働に伴う振動の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。
		施設関連車両の走行		1.予測結果 施設関連車両の走行に伴う振動レベルの予測結果は、施設関連車両台数を付加した振動レベルで33～38dB となった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 - 施設関連車両台数の低減：ごみ減量対策を推進し、運搬・持込車両の台数低減に努める。 - 運転手の教育・指導：施設関連車両の走行にあたっては、走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 - 環境影響の回避・低減に係る評価 予測結果は、施設関連車両を付加した振動レベルで 33～38dB となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 - 環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測結果は、施設関連車両を付加した振動レベルで 33～38dB となるため、環境保全目標値とした「60～65dB」を満足する値となった。 以上の結果より、工事用車両の走行に伴う振動の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。

<工事用車両の走行に伴う道路交通振動（ L_{10} ）の予測・評価結果>
[単位：dB]

平日休日の別	予測地点	現況騒音レベル	予測結果	環境保全目標値*	工事用車両による増加分
平日	県道276号（木尾南集落）	29	34	昼間：65 夜間：60	5
	国道365号（浅井福祉センター）	38	38		0（1未満）
	県道276号（浅井体育館）	33	35		2
休日	県道276号（木尾南集落）	26	35		9
	国道365号（浅井福祉センター）	34	35		1
	県道276号（浅井体育館）	32	36		4

注）※：「道路交通振動の要請限度」の第1種地域の値を適用した。

<施設の稼働に伴う振動レベル（ L_{10} ）の予測・評価結果（最大地点）>
[単位：dB]

最大となる地点	区分	予測結果（ L_{10} ）	環境保全目標値（ L_{10} ）*
西側敷地境界	昼間	55	60
	夜間	54	55

注）※：「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」を適用した。

<施設の稼働に伴う振動レベル（ L_{10} ）の評価結果（最寄住居）>
[単位：dB]

予測地点	区分		予測結果（ L_{10} ）	環境保全目標値（ L_{10} ）*
最寄住居	平日	昼間	28	55
		夜間	28	
	休日	昼間	28	
		夜間	28	

注）※：振動感覚閾値（人が振動を感じ始める値：55dB）を適用した。

<施設関連車両の走行に伴う道路交通振動（ L_{10} ）の予測・評価結果>
[単位：dB]

平日休日の別	予測地点	現況振動レベル	予測結果	環境保全目標値*	施設関連車両による増加分
平日	県道276号（木尾南集落）	29	33	昼間：65 夜間：60	4
	国道365号（浅井福祉センター）	38	38		0（1未満）
	県道276号（浅井体育館）	33	35		2
休日	県道276号（木尾南集落）	27	37		10
	国道365号（浅井福祉センター）	34	35		1
	県道276号（浅井体育館）	29	34		5

注）※：「道路交通振動の要請限度」の第1種地域の値を適用した。

表 11-10 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																		
	環境要素の区分	影響要因の区分																				
悪臭	悪臭	施設の稼働	試料採取および分析の結果、いずれの地点・項目についても、悪臭防止法に係る長浜市の規制基準値を下回っていた。	1.予測結果 <煙突排出ガスに伴う悪臭> ・ごみ焼却施設稼働時の煙突排ガスに含まれる悪臭施設からの悪臭 類似施設において測定された排ガスの調査結果を踏まえ拡散計算したごみ焼却施設稼働時の臭気濃度の最大値および臭気指数の予測値の最大値は 10 未満であった。 ・ごみ焼却施設休止時の排出口からの悪臭 メーカーヒアリングを踏まえた排出源諸元としたごみ焼却施設休止時の臭気濃度の最大値および臭気指数の予測値の最大値は 10 未満であった。 <ごみ焼却施設等の稼働時に施設から漏洩する悪臭> 既存施設（湖北広域行政事務センター クリーンプラント、第 1 プラント）および類似施設（大津市環境美化センター）の調査結果では、臭気指数は、敷地境界でともに 10 未満になっていること、既存施設の設備に係る環境配慮事項と同程度以上の環境配慮事項を講じる計画としていることから、本施設においても同程度の臭気指数（臭気指数 10 未満）となると予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 <煙突排出ガスに伴う悪臭> ・排ガス処理：窒素酸化物（サーマルNOx）等に由来する臭気については、脱硝設備における排ガス処理または適切な燃焼管理や薬剤噴霧等を行う。 ・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。 ・脱臭設備の設置：ごみ焼却施設稼働時には、焼却施設（バイオガス化施設含む）内の空気を燃焼用空気として引き込み、焼却炉内で臭気の高温分解を行う。炉停止時には脱臭装置による脱臭を行う。 <ごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭> ・臭気の高温分解：施設稼働時には、ごみピットの空気を燃焼用空気として引き込み、焼却炉内で臭気の高温分解を行う。 ・運転管理の徹底：焼却炉の適切な燃焼管理を行うとともに、適切な監視を行う。 ・悪臭漏洩の防止：施設内は負圧に保ち、ごみピットからの臭気の漏れ出しを防ぐとともに、プラットホーム出入り口にはエアカーテンを設置する。 ・脱臭装置の設置：施設休止時には、脱臭装置による脱臭を行う。 3.事後調査 <煙突排出ガスに伴う悪臭> 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 <ごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭> 予測にあたっては類似の既存施設および類似施設において測定された排ガスの調査結果を考慮しており、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 <煙突排出ガスに伴う悪臭> ・環境影響の回避・低減に係る評価 予測の結果、ごみ焼却施設稼働時の臭気濃度の最大値および臭気指数は 10 未満、ごみ焼却施設休止時の臭気濃度の最大値および臭気指数は 10 未満となるため、環境におよぼす影響の程度は小さいと予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測の結果、ごみ焼却施設稼働時の臭気濃度の最大値および臭気指数は 10 未満、ごみ焼却施設休止時の臭気濃度の最大値および臭気指数は 10 未満となり、環境保全目標値としている「悪臭防止法に基づく悪臭原因物の排出を規制する地域の指定及び規制基準」を満足する値となる。 以上の結果より、煙突排出ガスに伴う悪臭の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。 <煙突排出ガスに伴う悪臭の予測・評価結果（施設稼働時）> <table><tr><th>項目</th><th>一般的な気象条件</th><th>上層逆転層発生時</th><th>煙突ダウンウォッシュ発生時</th><th>建物ダウンウォッシュ発生時</th><th>フュミゲーション発生時</th></tr><tr><td>最大濃度地点の臭気指数[※]</td><td>10 未満（1 未満）</td><td>10 未満（1 未満）</td><td>10 未満（1 未満）</td><td>10 未満（1 未満）</td><td>10 未満（1）</td></tr><tr><td>最大濃度地点（距離：m）</td><td>550～600</td><td>550～600</td><td>650～700</td><td>400～450</td><td>200～250</td></tr></table> 注 1）表中の（ ）内の数値は、予測過程における計算上の値を参考を示したものである。 注 2）※：ごみ焼却場における臭気指数 10 は臭気強度 2.5 に該当し、臭気強度 2.5 における物質濃度の値は、環境保全目標としている「悪臭防止法に基づく悪臭原因物の排出を規制する地域の指定及び規制基準」に基づく長浜市の規制基準の値と同値である。 <ごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭> ・環境影響の回避・低減に係る評価 類似の既存施設および類似施設の調査結果においても臭気漏洩は少なく、既存施設の設備に係る環境配慮事項と同程度以上の環境配慮事項を実施することで、本施設においても同程度の臭気指数（臭気指数 10 未満）となるため、環境におよぼす影響の程度は低くなると予測され、また、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 ごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭の影響については、類似の既存施設および類似施設の調査結果においても臭気漏洩は少なく、既存施設および類似施設と同程度以上の環境配慮事項を実施することで、本施設においても同程度の臭気指数（臭気指数 10 未満）となると予測した。業種別の臭気強度と臭気指数の関係では、臭気強度 2.5 以下に該当し、臭気強度 2.5 は本施設の環境保全目標と同値である。 以上の結果より、ごみ焼却施設等からの漏洩に伴う悪臭の予測結果は、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。	項目	一般的な気象条件	上層逆転層発生時	煙突ダウンウォッシュ発生時	建物ダウンウォッシュ発生時	フュミゲーション発生時	最大濃度地点の臭気指数 [※]	10 未満（1 未満）	10 未満（1 未満）	10 未満（1 未満）	10 未満（1 未満）	10 未満（1）	最大濃度地点（距離：m）	550～600	550～600	650～700	400～450	200～250
項目	一般的な気象条件	上層逆転層発生時	煙突ダウンウォッシュ発生時	建物ダウンウォッシュ発生時	フュミゲーション発生時																	
最大濃度地点の臭気指数 [※]	10 未満（1 未満）	10 未満（1 未満）	10 未満（1 未満）	10 未満（1 未満）	10 未満（1）																	
最大濃度地点（距離：m）	550～600	550～600	650～700	400～450	200～250																	

表 11-11 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等
	環境要素の区分	影響要因の区分		
悪臭	悪臭	施設関連車両の走行	(前ページ参照)	1.予測結果 施設関連車両の走行に伴う悪臭の予測は、「長野広域連合A焼却施設建設事業に係る環境影響評価書」(平成24年2月、長野広域連合)における「廃棄物搬入車両からの臭気漏洩の影響」を既存事例として用いた。既存事例によると走行中の廃棄物搬入車両について、2m離れた地点と5m離れた地点で臭気指数、臭気強度が示されており、廃棄物搬入車両から2m離れた地点では臭気指数12.3(臭気強度2)、5m離れた地点では臭気指数10未満(臭気強度0)と無臭であった。 なお、2m離れた場合の臭気は排気ガス臭であり、廃棄物搬入車両からのごみ臭による臭気漏洩は確認されていない。 既存事例においても、廃棄物搬入車両からの臭気漏洩の影響は小さいと予測されており、以下に示す環境保全措置を実施することで、施設関連車両の走行時の臭気漏洩による影響は小さいと予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・運転手の教育・指導：回収した廃棄物の密閉や、タイヤ等への廃棄物の付着有無を逐次確認し、適正な運搬を行うよう、運転手の教育・指導を徹底する。 ・車両の維持管理：パッカー車の破損の有無等について、車両の点検確認を走行前に毎日実施し、廃棄物運搬時の臭気漏洩を防止する。 ・汚水タンク付き車両の使用：パッカー車に装着した汚水タンクは定期的に清掃を行い、車両からの汚水の漏洩による臭気漏洩を防止する。 3.事後調査 予測にあたっては類似事例での調査結果を用いており、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、施設関連車両の走行に伴う悪臭の影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。
水質	水質 (水の濁り、水の汚れ)	土地の改变	・河川水質(降雨時) 3降雨時を対象に調査を行った結果、a～dの全地点において、浮遊物質量は8～110mg/L、流量は0.004～8.253m³/s、窒素は0.53～3.0mg/L、りんは0.052～0.73mg/L、全亜鉛は0.003未満～0.012mg/Lの範囲であった。 ・河川水質(無降雨時) 調査地点では環境基準の類型指定はされていないが、参考にAA類型の環境基準と比較すると、春季～秋季にかけて水質aにおいては浮遊物質量が当該基準値を上回っていた。 その他の地点、項目については、当該基準値を下回っていた。 ・土質の状況 表層盛土土壌も含め、各地層ごとに試料採取を行ったうえで、均等混合した試料を用いた沈降試験の調査結果は、時間の経過とともに浮遊物質量、濁度が低下していく傾向がみられた。	1.予測結果 工事の実施による水質(水の濁り、水の汚れ)の予測結果は、対象事業実施区域から工事排水が流入し、影響が生じる可能性のある込田川合流後の地点cで浮遊物質量8.2～30.6mg/L、窒素0.77～1.2mg/L、りん0.069～0.25mg/L、全亜鉛0.006～0.009mg/Lとなった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・調整池の設置：敷地内の雨水を調整池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・ノッチタンク等の併用：掘削工事時にポンプアップした地下湧水は、可能な限りノッチタンク等に導水・泥土等を沈降させ、上澄み水を調整池に導水する。 ・調整池の浚渫：調整池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努める。 ・地下水湧出量の抑制：地下躯体工事箇所の掘削工事においては遮水矢板を打設するなどにより、地下水の湧出量を抑制する。 ・速やかな転圧等：造成の終わった法面等は、速やかな転圧または養生シートでの地表面の被覆等を行う。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、土地の改变に伴う水質(水の濁り、水の汚れ)への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 予測地点における無降雨時の浮遊物質量、窒素、りんおよび全亜鉛は環境保全目標値以下になると予測した。また、降雨時の浮遊物質量、窒素、りんおよび全亜鉛は、現況調査結果の変動範囲内、かつ平均値と同程度の濃度になると予測した。 以上のことから、土地の改变に伴う水質(水の濁り、水の汚れ)への影響については、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。

＜土地の改变に伴う水質(降雨時：水の濁り、水の汚れ)の予測・評価結果＞

項目	予測結果 (mg/L)	環境保全目標値(現況調査結果※)	
		平均値(mg/L)	変動幅(mg/L)
浮遊物質量	30.6	30.7	9～43
窒素	1.2	1.2	0.6～1.8
りん	0.25	0.25	0.07～0.38
全亜鉛	0.006	0.005	0.003未満～0.006

注) ※：3回実施した降雨時の水質調査結果を示す。

＜土地の改变に伴う水質(無降雨時：水の濁り、水の汚れ)の予測・評価結果＞

項目	予測結果 (mg/L)	現況調査結果		環境保全目標値 (mg/L)
		平均値(mg/L)	変動幅(mg/L)	
浮遊物質量	8.2	8.0	3～12	25 ^{※1}
窒素	0.77	0.43	0.31～0.51	1 ^{※3}
りん	0.069	0.070	0.048～0.10	0.2 ^{※2}
全亜鉛	0.009	0.003未満	0.003未満	0.03 ^{※1}

注) ※1：環境基準および長野市環境基本条例に基づく類型指定はないが、AA類型の値を参考として示した。

※2：環境基準が設定されていないため、「農業用水の汚濁程度別濃度分級(水稻用)」(森川ら, 1982)における最も低い汚濁程度の値を参考として示した。

※3：環境基準が設定されていないため、「農業用水の要望水質(水稻)」(農林省公害研究会, 1970)における水稻の正常な生育のために望ましい、灌漑用水の指標値を参考として示した。

表 11-12 環境影響評価の一覧

環境要素 の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																						
	環境要素の 区分	影響要因の 区分																																																								
動物	動物	土地の改 変、重機の 稼働	・動物相の状況 現地調査で確認した各調査項目の確認種一覧を、以下に示す。 <table><tr><th>項目</th><th>確認種数</th></tr><tr><td>哺乳類</td><td>7目 12科 16種</td></tr><tr><td>鳥類（一般鳥類） ※猛禽類調査での確認種を含む。</td><td>15目 37科 78種</td></tr><tr><td>鳥類（猛禽類・コウノトリ） ※一般鳥類調査との重複種を含む。</td><td>3目 4科 13種</td></tr><tr><td>両生類・爬虫類</td><td>4目 11科 16種</td></tr><tr><td>昆虫類 ※底生動物調査との重複種を含む。</td><td>18目208科800種</td></tr><tr><td>陸産貝類</td><td>2目 12科 27種</td></tr><tr><td>魚 類</td><td>5目 8科 22種</td></tr><tr><td>底生動物 ※昆虫類調査との重複種を含む。</td><td>22目 59科120種</td></tr></table> ・重要な種 以下に示す 101 種の重要な動物が確認された。 <table><tr><th>項目</th><th>種名</th></tr><tr><td>哺乳類</td><td>ジネズミ、ヒナコウモリ科（モモンロコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ）、ホンドザル、カヤネズミ、ツキノワグマ</td></tr><tr><td>鳥類</td><td>コウノトリ、アマサギ、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、イヌワシ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コシアカツバメ、ヤブサメ、オオヨシキリ、セッカ、ミノサザイ、コムクドリ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、タヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、クロジ</td></tr><tr><td>両生類</td><td>ヤマトサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、シュレーゲルアオガエル</td></tr><tr><td>爬虫類</td><td>ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ヤマカガシ</td></tr><tr><td>昆虫類</td><td>ナツアカネ、コオイムシ、ウスタビガ本土亜種、マダラコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、コガムシ、セマルケシマグソコガネ、タマムシ、ケブカツヤオオアリ、トゲアリ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ</td></tr><tr><td>陸産貝類</td><td>ナガオカモノアラガイ、ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ピロウドマイマイ属（エチゼンピロウドマイマイ、ピロウドマイマイ）、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ</td></tr><tr><td>魚類</td><td>フナ属（ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ）、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヌマムツ、タカハヤ、ドジョウ、ニシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属（シマヒレヨシノボリ）</td></tr><tr><td>底生動物</td><td>マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、マツカサガイ、ドブシジミ、キイロサナエ、コオイムシ</td></tr></table> 注）コオイムシは昆虫類、底生動物の両分類で確認されている。	項目	確認種数	哺乳類	7目 12科 16種	鳥類（一般鳥類） ※猛禽類調査での確認種を含む。	15目 37科 78種	鳥類（猛禽類・コウノトリ） ※一般鳥類調査との重複種を含む。	3目 4科 13種	両生類・爬虫類	4目 11科 16種	昆虫類 ※底生動物調査との重複種を含む。	18目208科800種	陸産貝類	2目 12科 27種	魚 類	5目 8科 22種	底生動物 ※昆虫類調査との重複種を含む。	22目 59科120種	項目	種名	哺乳類	ジネズミ、ヒナコウモリ科（モモンロコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ）、ホンドザル、カヤネズミ、ツキノワグマ	鳥類	コウノトリ、アマサギ、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、イヌワシ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コシアカツバメ、ヤブサメ、オオヨシキリ、セッカ、ミノサザイ、コムクドリ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、タヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、クロジ	両生類	ヤマトサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、シュレーゲルアオガエル	爬虫類	ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ヤマカガシ	昆虫類	ナツアカネ、コオイムシ、ウスタビガ本土亜種、マダラコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、コガムシ、セマルケシマグソコガネ、タマムシ、ケブカツヤオオアリ、トゲアリ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ	陸産貝類	ナガオカモノアラガイ、ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ピロウドマイマイ属（エチゼンピロウドマイマイ、ピロウドマイマイ）、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ	魚類	フナ属（ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ）、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヌマムツ、タカハヤ、ドジョウ、ニシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属（シマヒレヨシノボリ）	底生動物	マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、マツカサガイ、ドブシジミ、キイロサナエ、コオイムシ	1.予測結果 ・重要な種 重要な種ごとに、3つの影響要因それぞれに対し予測を行った。予測の結果、「影響は極めて大きい(AA)」に該当する種はなく、いずれかで「影響を受ける(A)」に該当する種は5種、いずれかで「影響は小さい(B)」に該当する種は5種、いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」に該当する種は91種であった。 <動物の予測における影響要因> <table><tr><th colspan="3">影響要因</th></tr><tr><td rowspan="2">工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>生息地の消失または縮小</td></tr><tr><td>重機の稼働</td><td>土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ</td></tr></table> <重要な動物種の予測結果一覧> <table><tr><th>予測結果*</th><th>種名</th></tr><tr><td>いずれかで「影響は極めて大きい(AA)」</td><td>該当なし</td></tr><tr><td>いずれかで「影響を受ける(A)」</td><td>トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、シュレーゲルアオガエル、コオイムシ、コガムシ（合計5種）</td></tr><tr><td>いずれかで「影響は小さい(B)」</td><td>ジネズミ、コウノトリ、コチドリ、ニホンイシガメ、ヤマカガシ、（合計5種）</td></tr><tr><td>いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」</td><td>ヒナコウモリ科（モモンロコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ）、ホンドザル、カヤネズミ、ツキノワグマ、アマサギ、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コシアカツバメ、ヤブサメ、オオヨシキリ、セッカ、ミノサザイ、コムクドリ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、タヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、クロジ、ヤマトサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエル、ニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ナツアカネ、ウスタビガ本土亜種、マダラコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、セマルケシマグソコガネ、タマムシ、ケブカツヤオオアリ、トゲアリ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ、ナガオカモノアラガイ、ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ピロウドマイマイ属（エチゼンピロウドマイマイ、ピロウドマイマイ）、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、フナ属（ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ）、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヌマムツ、タカハヤ、ドジョウ、ニシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属（シマヒレヨシノボリ）、マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、マツカサガイ、ドブシジミ、キイロサナエ（合計91種）</td></tr></table> 注1）※：各重要な種、影響要因ごとの合計3つの予測結果について、総合して整理した。 注2）対象事業実施区域内で繁殖を確認した種（繁殖の可能性のある種を含む）は(AA)または(A)とし、調査地域内での繁殖環境の改変割合が50%以上の場合は(AA)に、50%未満の場合は(A)に区分した。 ・注目すべき生息地 現況調査にて、注目すべき生息地の確認はなかった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・地形改変の最小化 工事施工ヤードは対象事業実施区域内を利用するなど、土地の不要な改変を避ける。 ・指定希少種の保護・個体の移殖 敷地内に生息するトノサマガエル、ナゴヤダルマガエル（指定希少種）、シュレーゲルアオガエル、コオイムシ、コガムシの個体や卵塊、幼生等を工事前に改変区域外に移殖する。この時、他に確認した水生生物も可能な限り移殖する。また、対象事業実施区域周辺では移殖対象種を多数確認しており、移殖先は、これらの種の生息適地が広く分布する対象事業実施区域周辺で選定する。 ・侵入防止 個体の移殖実施後は、速やかに水域に土砂を搬入するとともに、必要に応じ敷地内外の水域をつなぐ水路の入口に侵入防止のための板等を設置することで、水生生物の敷地内への再侵入を防止する。 ・調整池の設置 敷地内の雨水を調整池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・調整池の浚渫 調整池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努める。 ・地下水湧出量の抑制 地下躯体工事箇所の掘削工事においては遮水矢板を打設するなどにより、地下水の湧出量（排水量）を抑制する。 ・速やかな転圧等 造成の終わった法面等は、速やかな転圧または養生シートでの地表面の被覆等を行う。 ・低騒音型建設機械の採用 建設工事に使用する重機（建設機械）は、低騒音型の建設機械を採用するよう努める。 3.事後調査 予測の結果「影響は極めて大きい(AA)」に該当する種はなかった。また、予測結果および採用する環境保全措置の効果の不確実性は小さいと考えられる。このため、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事の実施（土地の改変および重機の稼働）に伴う動物への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。	影響要因			工事の実施	土地の改変	生息地の消失または縮小	重機の稼働	土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ	予測結果*	種名	いずれかで「影響は極めて大きい(AA)」	該当なし	いずれかで「影響を受ける(A)」	トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、シュレーゲルアオガエル、コオイムシ、コガムシ（合計5種）	いずれかで「影響は小さい(B)」	ジネズミ、コウノトリ、コチドリ、ニホンイシガメ、ヤマカガシ、（合計5種）	いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」	ヒナコウモリ科（モモンロコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ）、ホンドザル、カヤネズミ、ツキノワグマ、アマサギ、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コシアカツバメ、ヤブサメ、オオヨシキリ、セッカ、ミノサザイ、コムクドリ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、タヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、クロジ、ヤマトサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエル、ニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ナツアカネ、ウスタビガ本土亜種、マダラコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、セマルケシマグソコガネ、タマムシ、ケブカツヤオオアリ、トゲアリ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ、ナガオカモノアラガイ、ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ピロウドマイマイ属（エチゼンピロウドマイマイ、ピロウドマイマイ）、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、フナ属（ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ）、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヌマムツ、タカハヤ、ドジョウ、ニシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属（シマヒレヨシノボリ）、マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、マツカサガイ、ドブシジミ、キイロサナエ（合計91種）
項目	確認種数																																																									
哺乳類	7目 12科 16種																																																									
鳥類（一般鳥類） ※猛禽類調査での確認種を含む。	15目 37科 78種																																																									
鳥類（猛禽類・コウノトリ） ※一般鳥類調査との重複種を含む。	3目 4科 13種																																																									
両生類・爬虫類	4目 11科 16種																																																									
昆虫類 ※底生動物調査との重複種を含む。	18目208科800種																																																									
陸産貝類	2目 12科 27種																																																									
魚 類	5目 8科 22種																																																									
底生動物 ※昆虫類調査との重複種を含む。	22目 59科120種																																																									
項目	種名																																																									
哺乳類	ジネズミ、ヒナコウモリ科（モモンロコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ）、ホンドザル、カヤネズミ、ツキノワグマ																																																									
鳥類	コウノトリ、アマサギ、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、イヌワシ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コシアカツバメ、ヤブサメ、オオヨシキリ、セッカ、ミノサザイ、コムクドリ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、タヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、クロジ																																																									
両生類	ヤマトサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、シュレーゲルアオガエル																																																									
爬虫類	ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ヤマカガシ																																																									
昆虫類	ナツアカネ、コオイムシ、ウスタビガ本土亜種、マダラコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、コガムシ、セマルケシマグソコガネ、タマムシ、ケブカツヤオオアリ、トゲアリ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ																																																									
陸産貝類	ナガオカモノアラガイ、ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ピロウドマイマイ属（エチゼンピロウドマイマイ、ピロウドマイマイ）、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ																																																									
魚類	フナ属（ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ）、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヌマムツ、タカハヤ、ドジョウ、ニシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属（シマヒレヨシノボリ）																																																									
底生動物	マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、マツカサガイ、ドブシジミ、キイロサナエ、コオイムシ																																																									
影響要因																																																										
工事の実施	土地の改変	生息地の消失または縮小																																																								
	重機の稼働	土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ																																																								
予測結果*	種名																																																									
いずれかで「影響は極めて大きい(AA)」	該当なし																																																									
いずれかで「影響を受ける(A)」	トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、シュレーゲルアオガエル、コオイムシ、コガムシ（合計5種）																																																									
いずれかで「影響は小さい(B)」	ジネズミ、コウノトリ、コチドリ、ニホンイシガメ、ヤマカガシ、（合計5種）																																																									
いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」	ヒナコウモリ科（モモンロコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ）、ホンドザル、カヤネズミ、ツキノワグマ、アマサギ、チュウサギ、ホトトギス、ツツドリ、ケリ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、ミサゴ、ハチクマ、チュウヒ、イヌワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、アカショウビン、カワセミ、アリスイ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キクイタダキ、コシアカツバメ、ヤブサメ、オオヨシキリ、セッカ、ミノサザイ、コムクドリ、トラツグミ、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、タヒバリ、ベニマシコ、ホオアカ、クロジ、ヤマトサンショウウオ、タゴガエル、ヤマアカガエル、ニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ナツアカネ、ウスタビガ本土亜種、マダラコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、セマルケシマグソコガネ、タマムシ、ケブカツヤオオアリ、トゲアリ、モンズズメバチ、チャイロスズメバチ、ナミルリモンハナバチ、クズハキリバチ、ナガオカモノアラガイ、ナガタネガイ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ピロウドマイマイ属（エチゼンピロウドマイマイ、ピロウドマイマイ）、コシタカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイ、フナ属（ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ギンブナ）、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、ヌマムツ、タカハヤ、ドジョウ、ニシマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、ヨシノボリ属（シマヒレヨシノボリ）、マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、マツカサガイ、ドブシジミ、キイロサナエ（合計91種）																																																									
植物	植物	土地の改変	・植物相の状況 現地調査で確認した植物種は、115 科 448 種であった。 ・重要な種 確認した種のうち、4 種が重要な種に該当した。 <table><tr><th>項目</th><th>種名</th></tr><tr><td>植物</td><td>ミクリ、コガマ、ミズマツバ、カワデシヤ</td></tr></table> ・植生 確認した植生は、19 群落と 7 土地利用単位に区分された。 調査地域は水田の割合が最も大きく約 45%を占める。次いでスギ・ヒノキ植林が約 16%、コナラ群落が約 12%となる。確認した植生の植生自然度は、全て 7 以下であり、全域が人為的な影響を受けた地区であると考えられる。 ・重要な植物群落 現地調査の結果、重要な植物群落の確認はなかった。	項目	種名	植物	ミクリ、コガマ、ミズマツバ、カワデシヤ	1.予測結果 ・重要な種 重要な種ごとに、2つの影響要因それぞれに対し予測を行った。生息地の消失または縮小における予測結果は、予測対象種 4 種全てが「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」に該当した。土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れにおける予測結果は、予測対象種（ミクリ）1 種が「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」に該当した。 <植物の予測における影響要因> <table><tr><th colspan="3">影響要因</th></tr><tr><td rowspan="2">工事の実施</td><td>土地の改変</td><td>生息地の消失または縮小</td></tr><tr><td></td><td>土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ</td></tr></table> ・植物群落の改変状況 工事の実施（土地の改変）により、人工構造物を除き、ヤナギタデ群落（改変率 55.7%）、オオイヌタデ-オオクササキビ群落（改変率 43.4%）、畑地（改変率 0.1%）、人工裸地（改変率 59.6%）および開放水面（改変率 1.8%）が改変によって一部消失すると考えられる。このうち、ヤナギタデ群落、オオイヌタデ-オオクササキビ群落および人工裸地の改変率が高いが、これらは比較的新しく人為の影響で出現した二次的な植物群落であり、生育環境の減少による影響は極めて小さいと予測した。 ・重要な植物群落 現況調査にて、重要な植物群落の確認はなかった。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・調整池の設置 敷地内の雨水を調整池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・調整池の浚渫 調整池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努める。 ・地下水湧出量の抑制 地下躯体工事箇所の掘削工事においては遮水矢板を打設するなどにより、地下水の湧出量（排水量）を抑制する。 ・速やかな転圧等 造成の終わった法面等は、速やかな転圧または養生シートでの地表面の被覆等を行う。 3.事後調査 予測の結果「影響は極めて大きい(AA)」に該当する種はなかった。また、予測結果および採用する環境保全措置の効果の不確実性は小さいと考えられる。このため、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事の実施（土地の改変）に伴う植物への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。	影響要因			工事の実施	土地の改変	生息地の消失または縮小		土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ																																										
項目	種名																																																									
植物	ミクリ、コガマ、ミズマツバ、カワデシヤ																																																									
影響要因																																																										
工事の実施	土地の改変	生息地の消失または縮小																																																								
		土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ																																																								

表 11-13 環境影響評価の一覧

環境要素 の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等																																																
	環境要素の 区分	影響要因の 区分																																																		
生態系	生態系	土地の改 変、重機の 稼働	・動植物その他の自然環境に係る概況 動植物相に係る調査結果は、前頁に示したとおりである。 ・生態系の類型区分 調査地域の植生の分布状況から、環境類型区分を行った。調査地域では、「樹林」「耕作地・草地」「造成地」「水田」「河川」および「その他市街地等」の 6 つの環境類型区分が成立すると考えられる。 ＜類型区分＞<table><tr><th>環境類型区分</th><th>面積 (ha)</th><th>全体に占める割合 (%)</th></tr><tr><td>樹林</td><td>117.2</td><td>29.5</td></tr><tr><td>耕作地・草地</td><td>28.3</td><td>7.1</td></tr><tr><td>造成地</td><td>2.5</td><td>0.6</td></tr><tr><td>水田</td><td>181.0</td><td>45.5</td></tr><tr><td>河川</td><td>12.8</td><td>3.2</td></tr><tr><td>その他</td><td>55.8</td><td>14.0</td></tr><tr><td>合計</td><td>397.7</td><td>100.0</td></tr></table> ・注目種 ＜選定した注目種＞<table><tr><th>区分</th><th>種名</th></tr><tr><td>上位性</td><td>ホンドキツネ、コウノトリ、オオタカ</td></tr><tr><td>典型性</td><td>アカネズミ、ヒヨドリ、ヒバリ、シマヘビ、ナゴヤダルマガエル、オオカマキリ、キタキチョウ、ミジンヤマタニシ、ミナミメダカ、ニンギョウトビケラ</td></tr></table>	環境類型区分	面積 (ha)	全体に占める割合 (%)	樹林	117.2	29.5	耕作地・草地	28.3	7.1	造成地	2.5	0.6	水田	181.0	45.5	河川	12.8	3.2	その他	55.8	14.0	合計	397.7	100.0	区分	種名	上位性	ホンドキツネ、コウノトリ、オオタカ	典型性	アカネズミ、ヒヨドリ、ヒバリ、シマヘビ、ナゴヤダルマガエル、オオカマキリ、キタキチョウ、ミジンヤマタニシ、ミナミメダカ、ニンギョウトビケラ	1.予測結果 ・生態系の注目種（上位性、典型性、特殊性）への影響 注目種ごとに、3つの影響要因それぞれに対し予測を行った。予測の結果、「影響は極めて大きい(AA)」に該当する種はなく、いずれかで「影響を受ける(A)」に該当する種は1種、いずれかで「影響は小さい(B)」に該当する種は2種、いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」に該当する種は10種であった。 ＜生態系の予測における影響要因＞<table><tr><th colspan="3">影響要因</th></tr><tr><td rowspan="2">工事の 実施</td><td>土地の改変</td><td>生息地の消失または縮小 土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ</td></tr><tr><td>重機の稼働</td><td>重機の稼働に伴う騒音</td></tr></table> ＜注目種の予測結果一覧＞<table><tr><th>予測結果*</th><th>種名</th></tr><tr><td>いずれかで「影響は極めて大きい(AA)」</td><td>該当なし</td></tr><tr><td>いずれかで「影響を受ける(A)」</td><td>ナゴヤダルマガエル（合計1種）</td></tr><tr><td>いずれかで「影響は小さい(B)」</td><td>コウノトリ、ヒバリ（合計2種）</td></tr><tr><td>いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」</td><td>ホンドギツネ、オオタカ、アカネズミ、ヒヨドリ、シマヘビ、オオカマキリ、キタキチョウ、ミジンヤマタニシ、ミナミメダカ、ニンギョウトビケラ（合計10種）</td></tr></table> 注1) ※：各注目種、影響要因ごとの合計3つの予測結果について、総合して整理した。 注2) 対象事業実施区域内で繁殖を確認した種（繁殖の可能性がある種を含む）は(AA)または(A)とし、調査地域内での繁殖環境の改変割合が50%以上の場合は(AA)に、50%未満の場合は(A)に区分した。 ・生態系の基盤環境の改変状況 土地の改変により耕作地・草地（改変率6%）および造成地（改変率60.8%）が改変によって一部消失すると考えられ、耕作地・草地の「ヤナギタデ群落」、「オオイヌタデ-オオクサキビ群落」および造成地の「人工裸地」で改変率が高いと予測した。これらは比較的新しく人為の影響で出現した二次的な植物群落であり、自然度は低い。一方、比較的自然度の高い山地の樹林は改変しない。よって、土地の改変による生態系の基盤環境への影響は極めて小さいと予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・地形改変の最小化：工事施工ヤードは対象事業実施区域内を利用するなど、土地の不要な改変を避ける。 ・指定希少種の保護・個体の移植：敷地内に生息するナゴヤダルマガエル（指定希少種）の個体や卵塊、幼生等を工事前に改変区域外に移殖する。また、対象事業実施区域周辺では本種を多数確認しており、移殖先は、本種の生息適地が広く分布する対象事業実施区域周辺で選定する。 ・侵入防止：個体の移殖実施後は速やかに水域に土砂を搬入するとともに、必要に応じ敷地内外の水域をつなぐ水路の入口に侵入防止のための板等を設置することで、水生生物の敷地内への再侵入を防止する。 ・調整池の設置：敷地内の雨水を調整池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・調整池の浚渫：調整池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努める。 ・地下水湧出量の抑制：地下躯体工事箇所の掘削工事においては遮水矢板を打設するなどにより、地下水の湧出量（排水量）を抑制する。 ・速やかな転圧等：造成の終わった法面等は、速やかな転圧または養生シートでの地表面の被覆等を行う。 ・低騒音型建設機械の採用：建設工事に使用する重機（建設機械）は、低騒音型の建設機械を採用するよう努める。 3.事後調査 予測の結果「影響は極めて大きい(AA)」に該当する種はなかった。また、予測結果および採用する環境保全措置の効果の不確実性は小さいと考えられる。このため、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事の実施（土地の改変および重機の稼働）に伴う生態系への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。	影響要因			工事の 実施	土地の改変	生息地の消失または縮小 土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ	重機の稼働	重機の稼働に伴う騒音	予測結果*	種名	いずれかで「影響は極めて大きい(AA)」	該当なし	いずれかで「影響を受ける(A)」	ナゴヤダルマガエル（合計1種）	いずれかで「影響は小さい(B)」	コウノトリ、ヒバリ（合計2種）	いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」	ホンドギツネ、オオタカ、アカネズミ、ヒヨドリ、シマヘビ、オオカマキリ、キタキチョウ、ミジンヤマタニシ、ミナミメダカ、ニンギョウトビケラ（合計10種）
環境類型区分	面積 (ha)	全体に占める割合 (%)																																																		
樹林	117.2	29.5																																																		
耕作地・草地	28.3	7.1																																																		
造成地	2.5	0.6																																																		
水田	181.0	45.5																																																		
河川	12.8	3.2																																																		
その他	55.8	14.0																																																		
合計	397.7	100.0																																																		
区分	種名																																																			
上位性	ホンドキツネ、コウノトリ、オオタカ																																																			
典型性	アカネズミ、ヒヨドリ、ヒバリ、シマヘビ、ナゴヤダルマガエル、オオカマキリ、キタキチョウ、ミジンヤマタニシ、ミナミメダカ、ニンギョウトビケラ																																																			
影響要因																																																				
工事の 実施	土地の改変	生息地の消失または縮小 土地の改変に伴う水の濁りおよび水の汚れ																																																		
	重機の稼働	重機の稼働に伴う騒音																																																		
予測結果*	種名																																																			
いずれかで「影響は極めて大きい(AA)」	該当なし																																																			
いずれかで「影響を受ける(A)」	ナゴヤダルマガエル（合計1種）																																																			
いずれかで「影響は小さい(B)」	コウノトリ、ヒバリ（合計2種）																																																			
いずれも「影響は極めて小さい、または、影響はない(C)」	ホンドギツネ、オオタカ、アカネズミ、ヒヨドリ、シマヘビ、オオカマキリ、キタキチョウ、ミジンヤマタニシ、ミナミメダカ、ニンギョウトビケラ（合計10種）																																																			
景観	景観	施設の存在	・主要な眺望点の状況 対象事業実施区域から西方向約 3.8km に虎御前山（展望台）が、同北北西方向約 3.4km に小谷城跡（小谷山登山道）が分布している。 現地踏査の結果、対象事業実施区域から約 1km の範囲の近傍地域として、木尾町自治会館、木尾南集落、八島町および野田神社を代表地点に選定した。いずれの地点からも本施設が視認できると考えられた。また、国道 365 号沿道景観形成重点区域における眺望点として、本施設を視認できると考えられる対象事業実施区域から西方向約 1.8km の位置を代表地点として選定した。 ・景観資源の状況 対象事業実施区域周辺には、近江孤蓬庵、虎御前山、小谷城跡、茶白山古墳および西池の 5 つの景観資源が分布している。 ・主要な眺望景観の状況 「主要な眺望点の状況」で選定した調査対象地点 7 地点を主要眺望点とし、四季の景観写真を撮影した。	1.予測結果 ・主要な眺望点および景観資源の改変 主要な眺望点および景観資源の分布位置は、対象事業実施区域から十分に離れており、主要な眺望点および景観資源の改変は行わない。よって、施設の存在による主要な眺望点および景観資源の改変への影響はないと予測した。 ・主要な眺望景観の変化 主要な眺望点にける圧迫感等の変化は極めて小さく、全ての調査地点について、主要な眺望景観への影響は小さい、あるいは極めて小さいと予測した。代表的な調査地点における作成したフォトモンタージュおよび予測結果概要は以下に示すとおりである。 ＜フォトモンタージュおよび予測結果概要＞<table><tr><td> No.2 小谷城跡（小谷山登山道）  </td><td>水平見込角：2.2 度 垂直見込角：1.0 度 俯角：5.9 度 スカイラインの切断：なし 景観資源の視認性：変化なし 予測結果：影響は極めて小さい</td><td> No.6 野田神社  </td><td>水平見込角：9.1 度 垂直見込角：2.5 度 仰角（度）：2.6 スカイラインの切断：あり 景観資源の視認性：予測対象外^{注)} 予測結果：影響は小さい</td><td> No.7 国道 365 号  </td><td>水平見込角：3.4 度 垂直見込角：1.0 度 仰角：2.2 度 スカイラインの切断：なし 景観資源の視認性：予測対象外^{注)} 予測結果：影響は極めて小さい</td></tr></table> 注)「予測対象外」とは、眺望点から視認できる景観資源が無いため、予測対象外としたことを示す。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・周辺景観環境との調和：建屋および煙突の形状および配色に配慮し、また、敷地の周囲に植栽を施す。なお、植栽樹種の選定にあたっては、郷土樹種の導入にも可能な限り留意する。 ・「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応：建物等の意匠、色彩、緑化措置等の具体的な検討にあたっては、「長浜市景観まちづくり計画」に示された「行為の制限の基準」を採用する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、存在・供用（施設の存在）に伴う景観への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 存在・供用（施設の存在）に伴う景観への影響について、対象施設の配置、形状、配色、意匠については、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。	No.2 小谷城跡（小谷山登山道） 	水平見込角：2.2 度 垂直見込角：1.0 度 俯角：5.9 度 スカイラインの切断：なし 景観資源の視認性：変化なし 予測結果：影響は極めて小さい	No.6 野田神社 	水平見込角：9.1 度 垂直見込角：2.5 度 仰角（度）：2.6 スカイラインの切断：あり 景観資源の視認性：予測対象外 ^{注)} 予測結果：影響は小さい	No.7 国道 365 号 	水平見込角：3.4 度 垂直見込角：1.0 度 仰角：2.2 度 スカイラインの切断：なし 景観資源の視認性：予測対象外 ^{注)} 予測結果：影響は極めて小さい																																										
No.2 小谷城跡（小谷山登山道） 	水平見込角：2.2 度 垂直見込角：1.0 度 俯角：5.9 度 スカイラインの切断：なし 景観資源の視認性：変化なし 予測結果：影響は極めて小さい	No.6 野田神社 	水平見込角：9.1 度 垂直見込角：2.5 度 仰角（度）：2.6 スカイラインの切断：あり 景観資源の視認性：予測対象外 ^{注)} 予測結果：影響は小さい	No.7 国道 365 号 	水平見込角：3.4 度 垂直見込角：1.0 度 仰角：2.2 度 スカイラインの切断：なし 景観資源の視認性：予測対象外 ^{注)} 予測結果：影響は極めて小さい																																															

表 11-14 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等
	環境要素の区分	影響要因の区分		
廃棄物等	廃棄物等	土地の改変	・建設工事に伴う建設副産物の発生量 <建設発生土> 建設工事で発生する建設発生土量は、本施設で約21,400m³となる。 <その他の建設副産物> 建設工事に伴い発生するその他の建設副産物は、工場用途での規模別原単位が18kg/m²となり、その内訳の割合は、コンガラが24%、アスコンが6%、ガラス陶磁器が4%、廃プラが6%、金属くずが4%、木くずが10%、紙くずが4%、石膏ボードが7%、その他が6%となる。 ・施設の稼働に伴う廃棄物の発生量 施設の稼働に伴い発生する廃棄物の発生量は、焼却灰が約3,500 t /年、不燃物類が約1,200 t /年となる。	1.予測結果 <建設副産物の処分内容> 建設発生土は約21,400m³発生するが、発生土量は場内の災害廃棄物ストックヤード等に仮置きし、全量を埋戻土として場内利用する。これらの建設副産物は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき可能な限り再利用および再資源化に努めるとともに、再利用および再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測した。 <その他の建設副産物の処分内容> 主要施設である工場棟、管理棟の延床面積および算出した建設副産物の発生量は約500tと予測した。これらの建設副産物は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき可能な限り再利用および再資源化に努めるとともに、再利用および再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・適正な処理および再利用：建設副産物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」および「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき、適正な処理および再利用を図る。 ・適正な処分：再利用および再資源化できない建設副産物は、産業廃棄物処理業者へ委託し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適切に処分を行う。 ・再資源化の促進：建設廃棄物は、再利用しやすい材料の使用や分別を徹底し、再資源化の促進に努める。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、土地の改変に伴う廃棄物等の影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。
		施設の稼働		1.予測結果 施設の稼働に伴い焼却灰約3,500t/年、不燃物類約1,200t/年の廃棄物が発生するが、焼却灰・飛灰については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適切に中間処理を行ったうえで、大阪湾広域臨海環境整備センター（最終処分場）に搬入し、適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測した。 不燃物類については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、リサイクル施設で適切に中間処理を行ったうえでウイングブラザ（最終処分場）等に搬入し、適切に処分を行うことから、適正に処理・処分することができるものと予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・適正な処理および処分：施設供用後に発生する廃棄物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適切に中間処理を行ったうえで、適正な処理・処分を行う。 ・ごみ分別・減量化の推進：ごみ分別回収の徹底およびごみの減量化の取り組みを推進する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、施設の稼働に伴う廃棄物等の影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。

表 11-15 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測・評価結果等
	環境要素の区分	影響要因の区分		
温室効果ガス等	温室効果ガス	重機の稼働、工事用車両の走行	・ 工事の実施に伴う温室効果ガスの発生に関する活動量 計画施設の事業計画および既存施設の状況に基づき、以下のとおり発生要因を整理した。 <直接排出> ・ 重機の稼働 ・ ごみの焼却 ・ 機械等の稼働（燃料使用） <間接排出> ・ 工事用車両の走行 ・ 機械等の稼働（電気使用）	1.予測結果 工事の実施によって対象事業実施区域から直接排出される温室効果ガスは 4,701.7tCO₂、事業計画地外で間接的に排出される温室効果ガスは 220.5tCO₂、工事期間中に排出される温室効果ガスの合計は 4,922.2tCO₂ と予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・ 運転手の教育・指導：重機の稼働にあたっては、アイドリングストップの徹底や空ぶかしの禁止、重機に過剰な負荷をかけないよう留意することや、工事用車両の走行にあたっては、積載量や走行速度等の交通法規を遵守する等、運転手の教育・指導を徹底する。 ・ 車両の整備・点検：重機や工事用車両の整備不良による温室効果ガスの発生を抑制するため、整備・点検などの維持管理を徹底する。 ・ 運搬車両台数の低減：土地の改変に伴う発生土砂は、対象事業実施区域内で再利用し、周辺道路を走行する工事用車両の台数を減らす。 ・ 建設副産物の再利用：建設副産物については、可能な限り再利用に努め、焼却処分量の低減に努める。 ・ 緑化の推進：工事によって改変する箇所において緑化が可能な場合は、積極的に緑化を行う。 3.事後調査 予測では公表されている原単位および算出方法等を用いており、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・ 環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、重機の稼働および工事用車両の走行に伴う温室効果ガス等の影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。
		施設の稼働、施設関連車両の走行	・ 施設の供用に伴う温室効果ガスの発生に関する活動量 計画施設の事業計画および既存施設の状況に基づき、以下のとおり発生要因を整理した。 <直接排出> ・ ごみの焼却 ・ 施設の稼働（燃料使用） <間接排出> ・ 施設関連車両の走行 ・ 施設の稼働（電気使用） <削減> ・ 発電	1.予測結果 計画施設から直接排出される温室効果ガスは 21,634tCO₂/年、施設外で間接的に排出される温室効果ガスは 6,366tCO₂/年、合計で 28,000tCO₂/年の温室効果ガスが排出されると予測した。 なお、発電分を考慮すると、ごみの焼却を含む場合で約 30,200 tCO₂/年から約 20,400 tCO₂/年へと約 10,000 tCO₂/年の減少、ごみの焼却を除く場合で約 6,900 tCO₂/年から約-1,000 tCO₂/年へと約 7,900tCO₂/年が減少すると予測した。 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・ エネルギー回収：焼却等の処理により発生した廃熱を利用して施設内で発電・利用するほか、余剰電力については売電等を行い、エネルギーを回収・循環利用する。また、バイオガス発電を行い、エネルギー回収・循環利用を強化する。 ・ 運転手の教育・指導：施設関係車両の走行にあたっては、走行速度等の交通法規を遵守し、アイドリングストップの励行や空ぶかしを行わない等、運転手の教育・指導を徹底する。 ・ ごみ分別・減量化の推進：ごみ分別回収の徹底およびごみの減量化の取り組みを推進する。 3.事後調査 予測では公表されている原単位および算出方法等を用いており、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・ 環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、施設の稼働および施設関連車両の走行に伴う温室効果ガス等の影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。

表 11-16 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果および評価結果等																								
	環境要素の区分	影響要因の区分																										
文化財	文化財	土地の改変、重機の稼働、施設の存在	・ 指定（登録）文化財 調査地域内における指定（登録）文化財を現地で確認した結果、既存資料で確認した1件の国指定有形文化財（木造薬師如来坐像）および4件の市指定史跡（北国脇往還史跡、登り窯、大人塚古墳、城山古墳群）、計5件全ての指定文化財の存続を確認した。いずれの指定文化財も、対象事業実施区域から離れている。 また、動物の現地調査により特別天然記念物であるコウノトリの生息を確認した。 ・ 埋蔵文化財包蔵地 調査地域内における埋蔵文化財包蔵地として、2件の城跡、2件の窯跡、6件の寺院跡、3件の古墳群、1件の集落跡、1件の館跡、1件の集落跡・古墳、5件の散布地、計21件を確認した。 いずれの埋蔵文化財包蔵地も、対象事業実施区域から離れている。 ・ 未指定の有形文化財 調査地域内における未指定の有形の文化財として、現地調査および既存資料により社寺等が14件、15件の地蔵、12件の未指定の有形文化財（石碑、灯籠、時計台など）、計41件が確認された。 いずれの未指定の有形文化財も、対象事業実施区域から離れている。 ・ 主要な有形文化財等の抽出 確認された文化財について、その種類、位置等の概要、位置づけ（地域により重視されている対象等の視点）を整理し、予測対象とする主要な有形文化財等を抽出した。 抽出にあたっては、地域の歴史的・文化的特徴、専門家の意見、住民等の価値認識も考慮し、抽出した。 <table><tr><th>種類</th><th>抽出条件</th><th>主要な有形文化財等</th></tr><tr><td>指定（登録）文化財</td><td>全ての指定（登録）文化財</td><td>木造薬師如来坐像、コウノトリ、北国脇往還史跡、登り窯、大人塚古墳、城山古墳群 6件</td></tr><tr><td>埋蔵文化財包蔵地</td><td>専門家指摘の眺望点となる遺跡</td><td>大依山城遺跡 1件</td></tr><tr><td>未指定の有形文化財</td><td>自治会レベルで大切にされている庭園を備えた社寺</td><td>若一神社、勝傳寺、即心寺、八幡神社（八島）、秋葉神社、蓮臺寺、八幡神社（大依）、安勝寺 8件</td></tr></table>	種類	抽出条件	主要な有形文化財等	指定（登録）文化財	全ての指定（登録）文化財	木造薬師如来坐像、コウノトリ、北国脇往還史跡、登り窯、大人塚古墳、城山古墳群 6件	埋蔵文化財包蔵地	専門家指摘の眺望点となる遺跡	大依山城遺跡 1件	未指定の有形文化財	自治会レベルで大切にされている庭園を備えた社寺	若一神社、勝傳寺、即心寺、八幡神社（八島）、秋葉神社、蓮臺寺、八幡神社（大依）、安勝寺 8件	1.予測結果 主要な文化財について、文化財の直接改変、文化財と一体となった周辺環境の状態変化、文化財の内部から見る風景の変化、文化財へのアクセス特性の変化の視点で土地の改変および施設の存在による影響について予測を行った。 文化財の直接改変および文化財へのアクセス特性の変化については、影響はないと予測した。文化財と一体となった周辺環境の状態変化および文化財の内部から見る風景の変化については、一部の文化財について「影響は極めて小さい」と予測したが、その他は「影響はない」と予測した。コウノトリについては「動物」の項目で「影響は極めて小さい」と予測した。 <主要な文化財に関する予測結果> <table><tr><th>予測項目</th><th>予測結果</th></tr><tr><td>文化財の直接改変</td><td>直接改変をうける文化財はない。</td></tr><tr><td>文化財と一体となった周辺環境の状態変化</td><td>登り窯、大人塚古墳、城山古墳群、大依山城遺跡について、影響は極めて小さいと予測した。</td></tr><tr><td>文化財の内部から見る風景の変化</td><td>大人塚古墳、若一神社、勝傳寺、即心寺について、影響は極めて小さいと予測した。</td></tr><tr><td>文化財へのアクセス特性の変化</td><td>全ての文化財について、影響はないと予測した。</td></tr><tr><td>コウノトリの生息</td><td>「影響は極めて小さい（C）」と予測した。</td></tr></table> 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・ 遺跡の不時発見時における文化財保護法対応：工事中に遺跡等を発見した場合には、文化財保護法第九十七条に従い、遺跡の現状を変更せず、長浜市歴史遺産課に届け出るとともに、必要な調査等に協力する。 ・ 地形改変の最小化：工事施工ヤードは対象事業実施区域内を利用するなど、土地の不要な改変を避ける。 ・ 調整池の設置：敷地内の雨水を調整池に集めて沈砂後に下流河川へ放流する。 ・ 調整池の浚渫：調整池における濁水の沈降機能が維持されるよう、定期的な土砂の抜き取りなど適切な対応に努める。 ・ 地下水湧出量の抑制：地下躯体工事箇所の掘削工事においては遮水矢板を打設するなどにより、地下水の湧出量（排水量）を抑制する。 ・ 速やかな転圧等：造成の終わった法面等は、速やかな転圧または養生シートでの地表面の被覆等を行う。 ・ 低騒音型建設機械の採用：建設工事に使用する重機（建設機械）は、低騒音型の建設機械を採用するよう努める。 ・ 周辺景観環境との調和：建屋および煙突の形状および配色に配慮し、また、敷地の周囲に植栽を施す。 ・ 「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応：建物等の意匠、色彩、緑化措置等の具体的な検討にあたっては、「長浜市景観まちづくり計画」に示された「行為の制限の基準」を採用する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・ 環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事の実施（土地の改変・重機の稼働）および存在・供用（施設の存在）に伴う文化財への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。 ・ 環境保全施策に係る基準または目標との整合性評価 対象事業実施区域は埋蔵文化財包蔵地の指定対象外であり、文化財保護法の規定を満足していることから、環境の保全に係る基準または目標との整合性が図られているものと評価した。	予測項目	予測結果	文化財の直接改変	直接改変をうける文化財はない。	文化財と一体となった周辺環境の状態変化	登り窯、大人塚古墳、城山古墳群、大依山城遺跡について、影響は極めて小さいと予測した。	文化財の内部から見る風景の変化	大人塚古墳、若一神社、勝傳寺、即心寺について、影響は極めて小さいと予測した。	文化財へのアクセス特性の変化	全ての文化財について、影響はないと予測した。	コウノトリの生息	「影響は極めて小さい（C）」と予測した。
種類	抽出条件	主要な有形文化財等																										
指定（登録）文化財	全ての指定（登録）文化財	木造薬師如来坐像、コウノトリ、北国脇往還史跡、登り窯、大人塚古墳、城山古墳群 6件																										
埋蔵文化財包蔵地	専門家指摘の眺望点となる遺跡	大依山城遺跡 1件																										
未指定の有形文化財	自治会レベルで大切にされている庭園を備えた社寺	若一神社、勝傳寺、即心寺、八幡神社（八島）、秋葉神社、蓮臺寺、八幡神社（大依）、安勝寺 8件																										
予測項目	予測結果																											
文化財の直接改変	直接改変をうける文化財はない。																											
文化財と一体となった周辺環境の状態変化	登り窯、大人塚古墳、城山古墳群、大依山城遺跡について、影響は極めて小さいと予測した。																											
文化財の内部から見る風景の変化	大人塚古墳、若一神社、勝傳寺、即心寺について、影響は極めて小さいと予測した。																											
文化財へのアクセス特性の変化	全ての文化財について、影響はないと予測した。																											
コウノトリの生息	「影響は極めて小さい（C）」と予測した。																											

表 11-17 環境影響評価の一覧

環境要素の区分	項目		調査結果	予測結果および評価結果等												
	環境要素の区分	影響要因の区分														
伝承文化	伝承文化	土地の改変、施設の存在	・祭り・行事 調査地域内における伝承文化のうち、祭り・行事にかかるものについて、文献調査、ヒアリングにより把握できたものはオコナイが 5 件、神社の例祭が 9 件、太鼓踊りが 1 件の、計 15 件であり、そのうち「木尾地区の太鼓踊り」および「綾木神社（木尾町）のオコナイ」については既に途絶えている。 ・水文化に係る伝承文化の場 地元関係者のヒアリングにより、地域に根差した伝承文化の場として、水の利用に関わる場が挙げられたことから、対象事業実施区域が位置する木尾町において、ため池、湧水、集落の洗い場の分布を調査した。調査地域内における水に関わる伝承文化の場として、ため池が 2 件、湧水が 1 件、谷水を利用した集落の洗い場が 6 件、計 9 件が確認された。 調査対象の木尾集落は、谷部の扇状地に形成されており、水に関わる伝承文化の場はいずれも集落内に分布していた。 ・主要な伝承文化の抽出 確認された伝承文化について、その種類、位置等の概要、位置づけ（地域により重視されている対象等の視点）を整理し、予測対象とする主要な伝承文化を抽出した。 抽出にあたっては、地域の歴史的・文化的特徴、住民等の価値認識、当該地域の土地や周辺環境との一体性も考慮し、抽出した。 <table><thead><tr><th>抽出条件</th><th>主要な伝承文化</th></tr></thead><tbody><tr><td>・地域の歴史、文化を現在および将来に伝承し得る要素 ・地域住民に広く利用され、または親しまれている要素 ・多くの人々が訪れるような要素 ・多くの人々が感動・感銘を受け、鑑賞の対象となっているような要素 ・他にはない傑出した個性や特徴を有する要素 ・アクセス特性の変化が見込まれる ・当該地域の土地や周辺環境との一体性に変化が見込まれる</td><td>木尾地区のオコナイ、大龍寺(木尾町)のオコナイ、若一神社の例祭、波久奴神社の例祭、金比羅神社祭、諏訪神社祭、太田寺灯明祭、天神祭り</td></tr></tbody></table>	抽出条件	主要な伝承文化	・地域の歴史、文化を現在および将来に伝承し得る要素 ・地域住民に広く利用され、または親しまれている要素 ・多くの人々が訪れるような要素 ・多くの人々が感動・感銘を受け、鑑賞の対象となっているような要素 ・他にはない傑出した個性や特徴を有する要素 ・アクセス特性の変化が見込まれる ・当該地域の土地や周辺環境との一体性に変化が見込まれる	木尾地区のオコナイ、大龍寺(木尾町)のオコナイ、若一神社の例祭、波久奴神社の例祭、金比羅神社祭、諏訪神社祭、太田寺灯明祭、天神祭り	1.予測結果 主要な伝承文化について、伝承文化の場への直接改変の程度、伝承文化の環境の状態変化、伝承文化へのアクセス特性の変化の視点で土地の改変および施設の存在による影響について予測を行った。 伝承文化の場への直接改変および伝承文化へのアクセス特性の変化については、影響はないと予測した。伝承文化の環境の状態変化については、波久奴神社の例祭では、神輿回しが行われる御旅所からは対象事業実施区域方向を視認できることから眺望景観に変化を生じる可能性があり「影響は小さい」と予測したが、その他は「影響はない」と予測した。 <伝承文化に関する予測結果> <table><thead><tr><th>予測項目</th><th>予測結果</th></tr></thead><tbody><tr><td>伝承文化の場への直接改変の程度</td><td>直接改変をうける伝承文化の場はない。</td></tr><tr><td>伝承文化の環境の状態変化</td><td>波久奴神社の例祭について、神輿回しが行われる御旅所からは、対象事業実施区域方向を視認できることから眺望景観の変化の程度を予測した。予測結果は右に示すとおりであり、眺望景観はわずかに変化するが、影響は小さいと予測した。以上より、影響は小さいと予測した。</td></tr><tr><td>伝承文化へのアクセス特性の変化</td><td>全ての伝承文化の場について、影響はないと予測した。</td></tr></tbody></table> 2.環境保全措置の検討 環境保全措置の検討および検証を行った結果、実施することとした環境保全措置の内容は以下に示すとおりである。 ・周辺景観環境との調和：建屋および煙突の形状および配色に配慮し、また、敷地の周囲に植栽を施す。 ・「長浜市景観まちづくり計画」に従った景観対応：建物等の意匠、色彩、緑化措置等の具体的な検討にあたっては、「長浜市景観まちづくり計画」に示された「行為の制限の基準」を採用する。 3.事後調査 採用した予測手法は、その予測精度に係る知見が十分に蓄積されているものであり、予測の不確実性は小さい。また、採用する環境保全措置の効果も知見が十分に蓄積されていると考えられることから、事後調査は実施しない。 4.評価結果 ・環境影響の回避・低減に係る評価 調査および予測の結果、ならびに環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事の実施（土地の改変）および存在・供用（施設の存在）に伴う伝承文化への影響は、上記の環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価した。	予測項目	予測結果	伝承文化の場への直接改変の程度	直接改変をうける伝承文化の場はない。	伝承文化の環境の状態変化	波久奴神社の例祭について、神輿回しが行われる御旅所からは、対象事業実施区域方向を視認できることから眺望景観の変化の程度を予測した。予測結果は右に示すとおりであり、眺望景観はわずかに変化するが、影響は小さいと予測した。以上より、影響は小さいと予測した。	伝承文化へのアクセス特性の変化	全ての伝承文化の場について、影響はないと予測した。
抽出条件	主要な伝承文化															
・地域の歴史、文化を現在および将来に伝承し得る要素 ・地域住民に広く利用され、または親しまれている要素 ・多くの人々が訪れるような要素 ・多くの人々が感動・感銘を受け、鑑賞の対象となっているような要素 ・他にはない傑出した個性や特徴を有する要素 ・アクセス特性の変化が見込まれる ・当該地域の土地や周辺環境との一体性に変化が見込まれる	木尾地区のオコナイ、大龍寺(木尾町)のオコナイ、若一神社の例祭、波久奴神社の例祭、金比羅神社祭、諏訪神社祭、太田寺灯明祭、天神祭り															
予測項目	予測結果															
伝承文化の場への直接改変の程度	直接改変をうける伝承文化の場はない。															
伝承文化の環境の状態変化	波久奴神社の例祭について、神輿回しが行われる御旅所からは、対象事業実施区域方向を視認できることから眺望景観の変化の程度を予測した。予測結果は右に示すとおりであり、眺望景観はわずかに変化するが、影響は小さいと予測した。以上より、影響は小さいと予測した。															
伝承文化へのアクセス特性の変化	全ての伝承文化の場について、影響はないと予測した。															
				 <波久奴神社の例祭の景観予測結果概要> 水 平 見 込 角：5.2 度 仰 角：2.0 度 俯 角：0.1 度 スカイラインの切断：あり 景観資源の視認性：変化なし 予測結果：影響は小さい												